

平成 19 年 6 月の地震活動及び火山活動について

○ [地震活動]

震度 5 弱以上を観測した地震及び津波を観測した地震はありませんでした。

全国で震度 1 以上を観測した地震の回数は 195 回（大分県中部の地震活動 64 回を含む）、日本及びその周辺における M 4 以上の地震の回数は 81 回でした。

国土地理院の G P S 観測結果では、全国の地殻変動について特に目立った変動は見られません。

震度 3 以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙 1 のとおりです。また、世界の主な地震は別紙 2 のとおりです。

○ [火山活動]

噴火が観測されたのは、桜島及び諏訪之瀬島でした。

桜島では、昭和火口で小規模な噴火が時々発生しました。また、南岳山頂火口では、16 日と 21 日に爆発的噴火が発生しました。

諏訪之瀬島では 1 日と 12 日に小規模な噴火が発生しました。

三宅島では、多量の火山ガスの放出が続いています。

樽前山、硫黄島、福德岡ノ場、薩摩硫黄島及び口永良部島では、火山活動のやや活発な状態が続いています。

日本の主な火山活動の概況は別紙 3 のとおりです。また、世界の主な火山活動は別紙 4 のとおりです。

注 1：国土地理院の GPS による地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成 19 年 5 月～6 月の地殻変動について」を参照ください。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2007/goudou0709.htm>

注 2：気象庁の地震活動資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています。

注 3：地震活動および火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編)2007 年 6 月号(2007 年 7 月末頃に刊行及び気象庁ホームページ掲載予定)をご覧ください。

注 4：平成 19 年 7 月の地震活動及び火山活動については、平成 19 年 8 月 7 日に発表の予定です。

2007 年 6 月の主な地震活動^{注1)}

番号	月 日	時 分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	備考／コメント
1	6 月 1 日	7時28分	埼玉県北部	59	4.5	3	フィリピン海プレート内部で発生した地震
2	6 月 1 日	11時42分	静岡県西部	13	4.3	4	陸域の浅い地震
3	6 月 2 日	14時43分	茨城県南部	50	4.6	4	フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震
4	6 月 6 日	23時42分	大分県中部	11	4.9	4	陸域の浅い地震
	6 月 7 日	17時22分	大分県中部	9	4.7	4	陸域の浅い地震
	6 月 7 日	20時50分	大分県中部	8	4.7	4	陸域の浅い地震
5	6 月 11 日	3時45分	能登半島沖	7	5.0	4	平成19年（2007年）能登半島地震の余震
6	6 月 22 日	3時34分	石川県西方沖	8	4.6	4	陸域の浅い地震
7	6 月 23 日	7時20分	日高支庁西部	125	4.9	3	太平洋プレート内部で発生した地震
8	6 月 23 日	23時52分	茨城県沖	53	4.2	4	太平洋プレートと陸のプレートの境界付近で発生した地震
9	6 月 28 日	18時26分	東京都多摩西部	15	4.1	4	陸域の浅い地震

注1) 「主な地震活動」とは①陸域でM4.5以上もしくは最大震度4以上の地震、②海域でM5.0以上かつ震度3以上の地震、③M6.0以上の地震、④以前に取り上げた地震活動で、活動が継続しているもの。

その他の活動^{注2)}

月 日	時 分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	備考／コメント
7 月 1 日	13時12分	根室支庁北部	132	5.8	4	太平洋プレート内部で発生した地震
7 月 3 日	23時31分	茨城・千葉県境付近 〔茨城県南部〕 ^{注3)}	48	4.5	3	太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震

注2) 「その他の活動」とは、注1) の主な地震活動の基準に該当する地震で2007年7月中に発生したもの。

注3) [] は、気象庁が地震情報発表の際に用いた震央地名。

・地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果

2007年6月25日に気象庁において第253回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会（定例会）を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表しました。その後も地震・地殻活動等の状況に変化はありません。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖東方から静岡県中部の直下では通常より活動レベルの低い状態になっていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

東海地域及びその周辺の地殻変動には注目すべき特別な変化は観測されていません。

なお、6月15日から17日にかけて長野県南部直下プレート境界の短期的ゆっくり滑りに起因すると見られる低周波地震活動と地殻変動が観測されました。この付近では同様の現象が昨年8月～9月にも観測されています。

※ 本資料中のデータについて

気象庁では、平成9年11月10日より、国・地方公共団体及び住民が一体となった緊急防災対応の迅速かつ円滑な実施に資するため、気象庁の震度計の観測データに合わせて地方公共団体及び独立行政法人防災科学技術研究所*から提供されたものも震度情報として発表している。

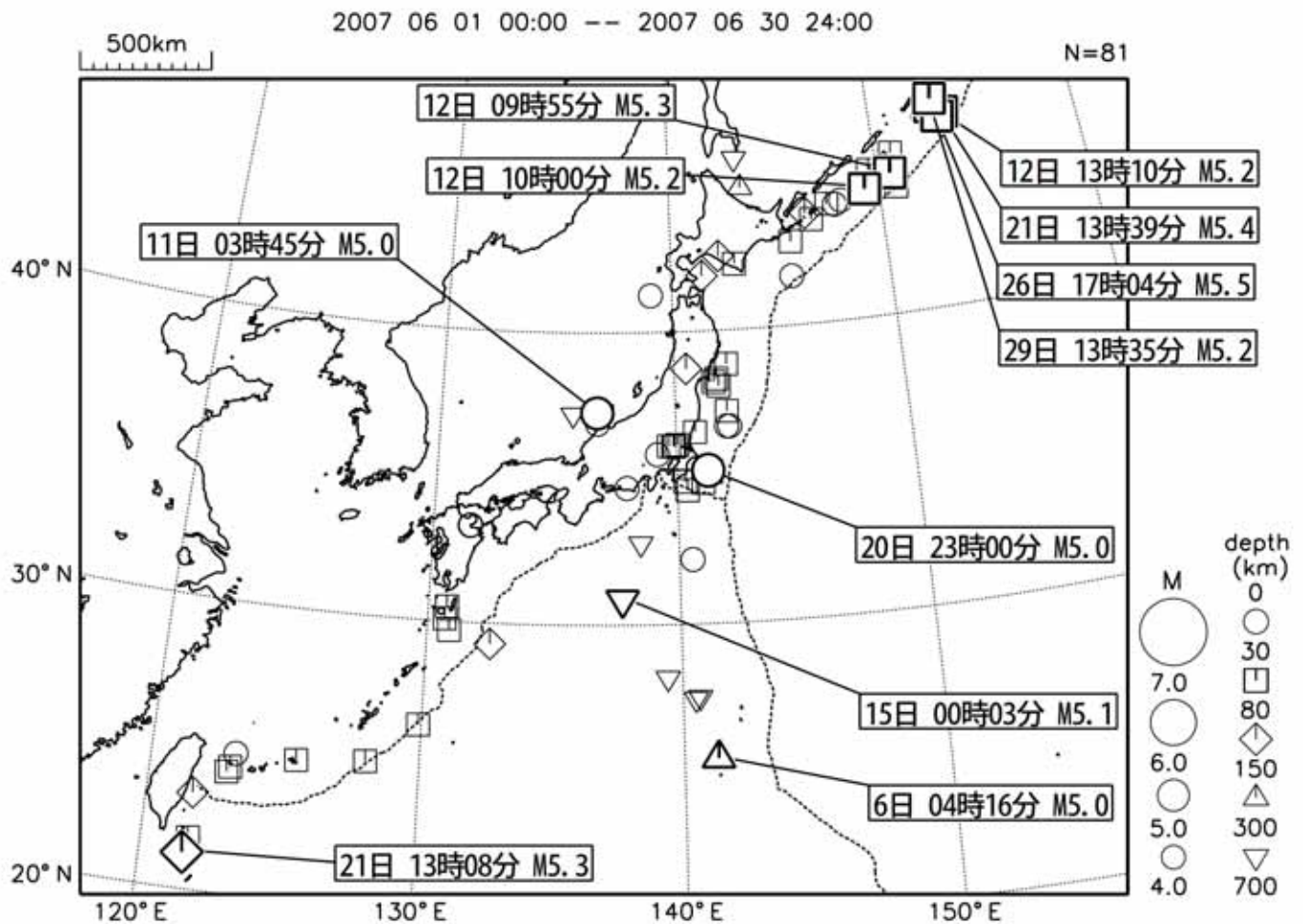
また、気象庁では、地震防災対策特別措置法の趣旨に沿って、平成9年10月1日より、大学や独立行政法人防災科学技術研究所等の関係機関から地震観測データの提供を受け**、文部科学省と協力してこれを整理し、整理結果等を、同法に基づいて設置された地震調査研究推進本部地震調査委員会に提供するとともに、気象業務の一環として防災情報として適宜発表する等活用している。

なお、地震・火山観測データの整理結果については、「地震・火山月報（カタログ編）」に掲載している。

注* 秋田県、埼玉県、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県、横浜市（神奈川県）（以上1府8県、1政令指定都市は平成9年11月10日から発表）、群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県及び愛媛県（以上6県は平成10年6月15日から発表）、青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、広島県、徳島県、熊本県、宮崎県及び鹿児島県（以上1府11県は平成10年10月15日から発表）、東京都、長野県（以上1都1県は平成11年7月21日から発表）、栃木県、千葉県、岐阜県、名古屋市（愛知県）（以上3県、1政令指定都市は平成12年1月12日から発表）、滋賀県（平成12年3月28日から発表）、富山県、香川県、大分県（以上3県は平成12年7月18日から発表）、佐賀県（平成13年3月22日から発表）、山梨県、川崎市（神奈川県）（以上1県、1政令指定都市は平成13年5月10日から発表）、高知県（平成13年7月19日から発表）、福島県（平成13年12月12日から発表）、岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県、仙台市（宮城県）（以上4県、1政令指定都市は平成14年3月20日から発表）北海道、長崎県（以上1道1県、平成14年7月29日から発表）、沖縄県（平成15年3月10日から発表）の47都道府県、4政令指定都市と独立行政法人防災科学技術研究所（平成16年5月26日から発表）。

注** 平成19年6月末現在：国土地理院、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所、独立行政法人海洋研究開発機構、独立行政法人産業技術総合研究所、青森県、東京都、静岡県、神奈川県、神奈川県温泉地学研究所及び横浜市による地震観測データを利用している。また、富山・石川・岐阜・長野県を中心とする総合観測として、缶集中帯大学合同地震観測グループ（北海道大学・弘前大学・東北大学・千葉大学・東京大学地震研究所・名古屋大学・京都大学防災研究所・金沢大学・福井工業高専・九州大学・鹿児島大学）が行っている自然地震観測のデータを利用している。このほか、能登半島地震合同観測グループ（東京大学地震研究所、北海道大学、東北大学、名古屋大学、金沢大学、京都大学防災研究所、九州大学、鹿児島大学、防災科学技術研究所、産業技術総合研究所）が行っている自然地震観測のデータを利用している。

2007 年 6 月の全国地震活動 (マグニチュード 4.0 以上)



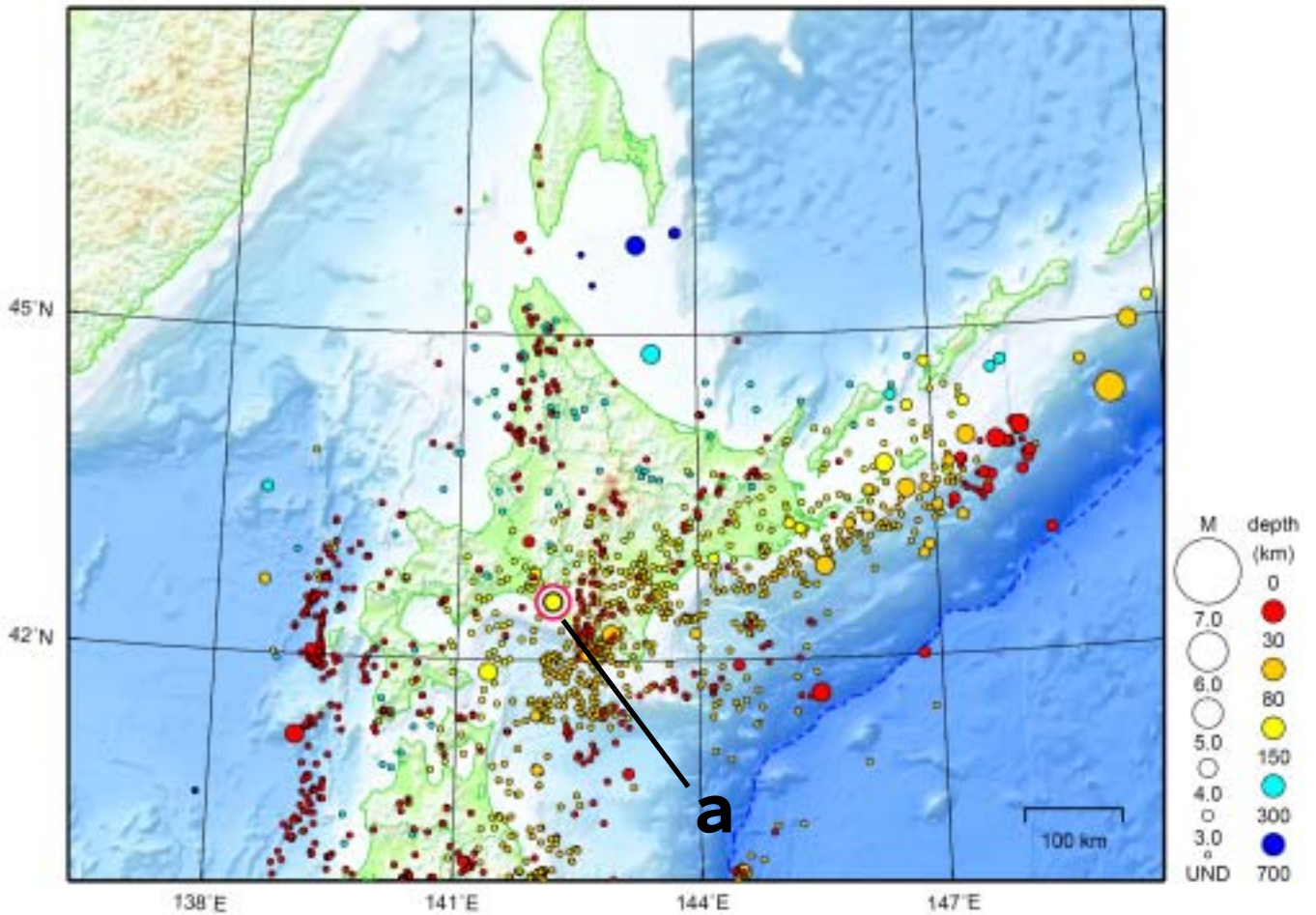
目立った地震活動はなかった。

[図中に日時分、マグニチュードを付した地震は M5.0 以上の地震、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。
また、上に表記した地震は M6.0 以上、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。]

北海道地方

2007/06/01 00:00 ~ 2007/06/30 24:00

N=1561



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

a) 6月23日に日高支庁西部で M4.9 (最大震度 3) の地震があった。

(上記期間外)

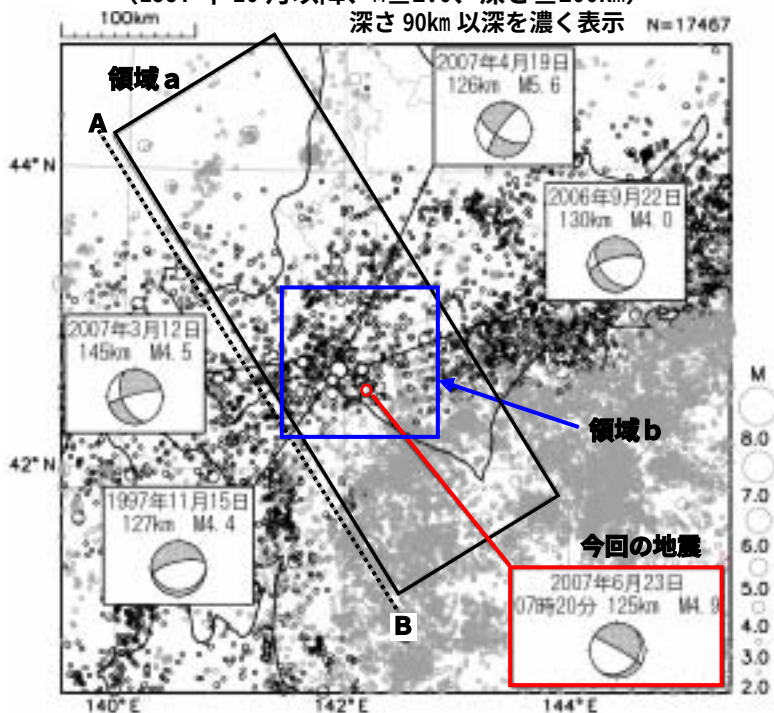
7月1日に根室支庁北部で M5.8 (最大震度 4) の地震があった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

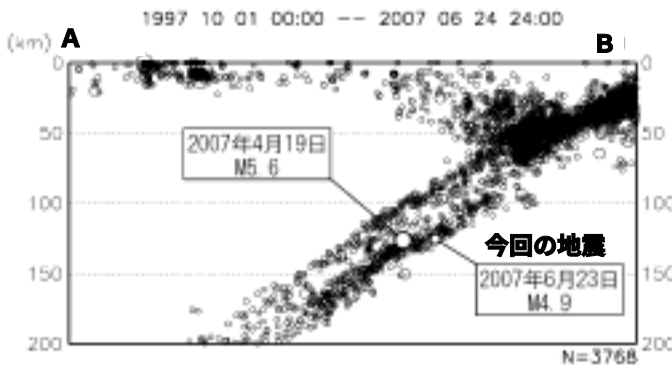
気象庁・文部科学省

6月23日 日高支庁西部の地震

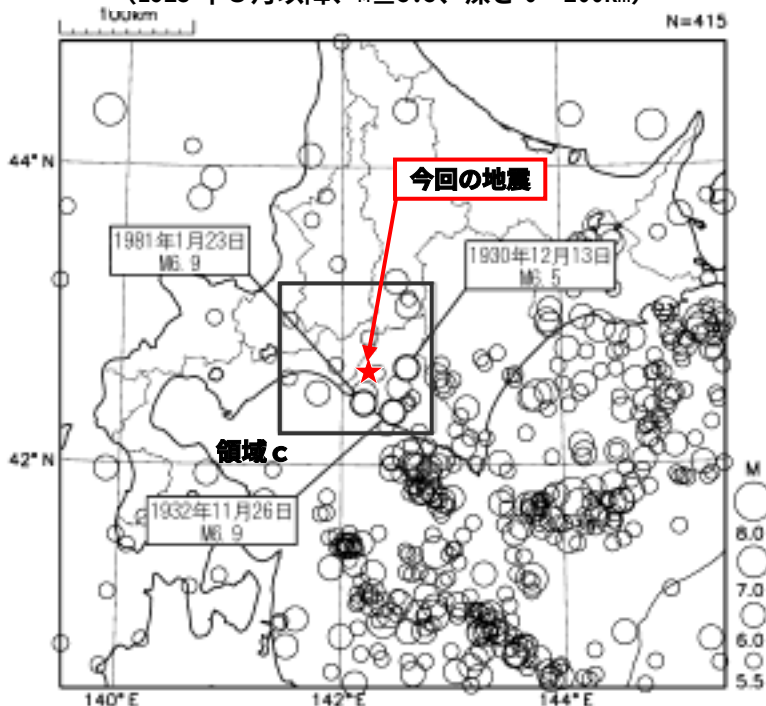
A 震央分布図
(1997年10月以降、 $M \geq 2.0$ 、深さ ≤ 200 km)
深さ 90 km 以深を濃く表示 N=17467



領域a内の断面図 (A-B投影)



B 震央分布図
(1923年8月以降、 $M \geq 5.5$ 、深さ 0~200 km) N=415

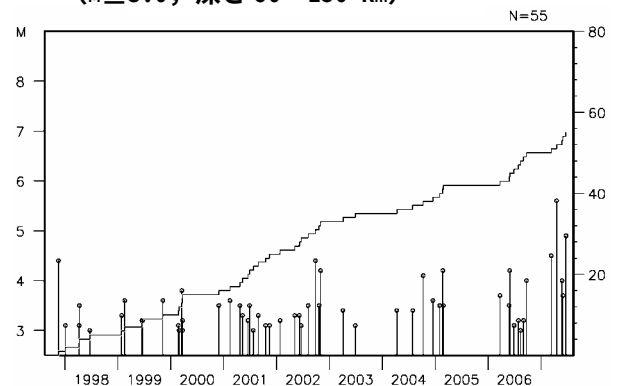


2007年6月23日07時20分に日高支庁西部の深さ125 kmでM4.9(最大震度3)の地震が発生した。余震は観測していない。

この地震は、太平洋プレート内部(二重地震面の下面)で発生した地震である。発震機構は南北方向に張力軸を持つ型であった。

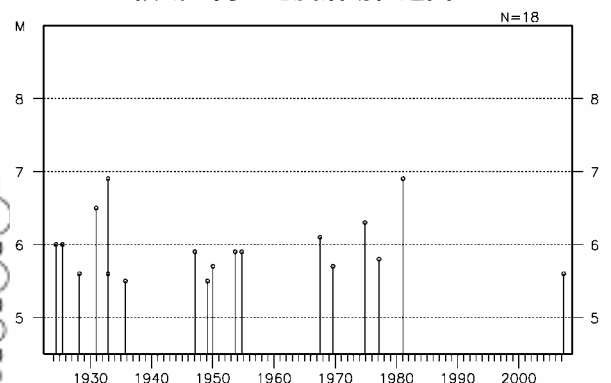
1997年10月以降の活動を見ると、2007年4月19日にM5.6(最大震度4)の地震が発生するなど、2007年に入ってやや規模の大きな地震が発生している。(A)

領域b内の地震活動経過図、回数積算図
($M \geq 3.0$ 、深さ 90~150 km)



1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近では、1981年1月23日にM6.9の地震(深さ130 km, 最大震度5)が発生しているが、その後はM6.0以上の地震は発生していない。(B)

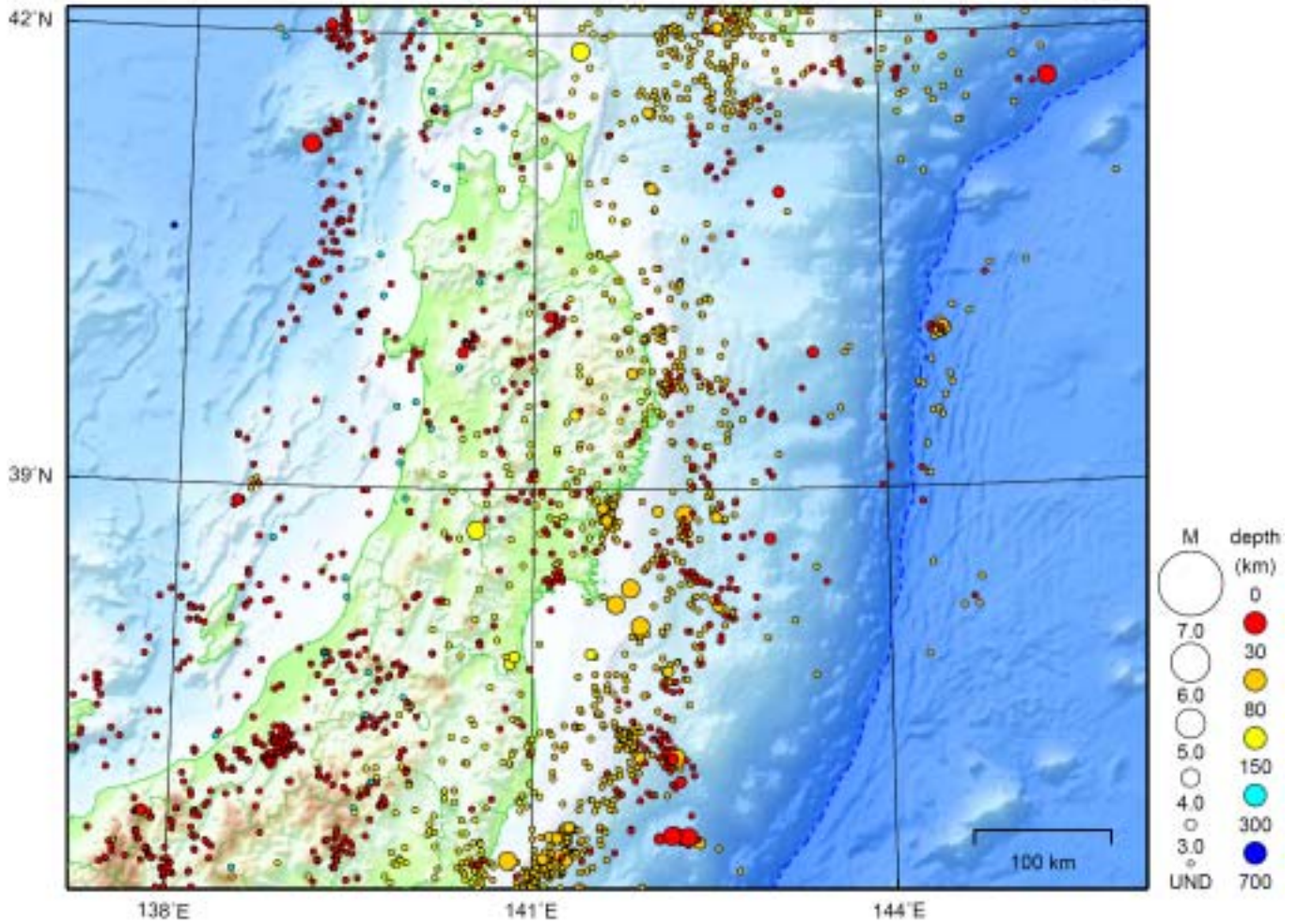
領域c内の地震活動経過図



東北地方

2007/06/01 00:00 ~ 2007/06/30 24:00

N=2907



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

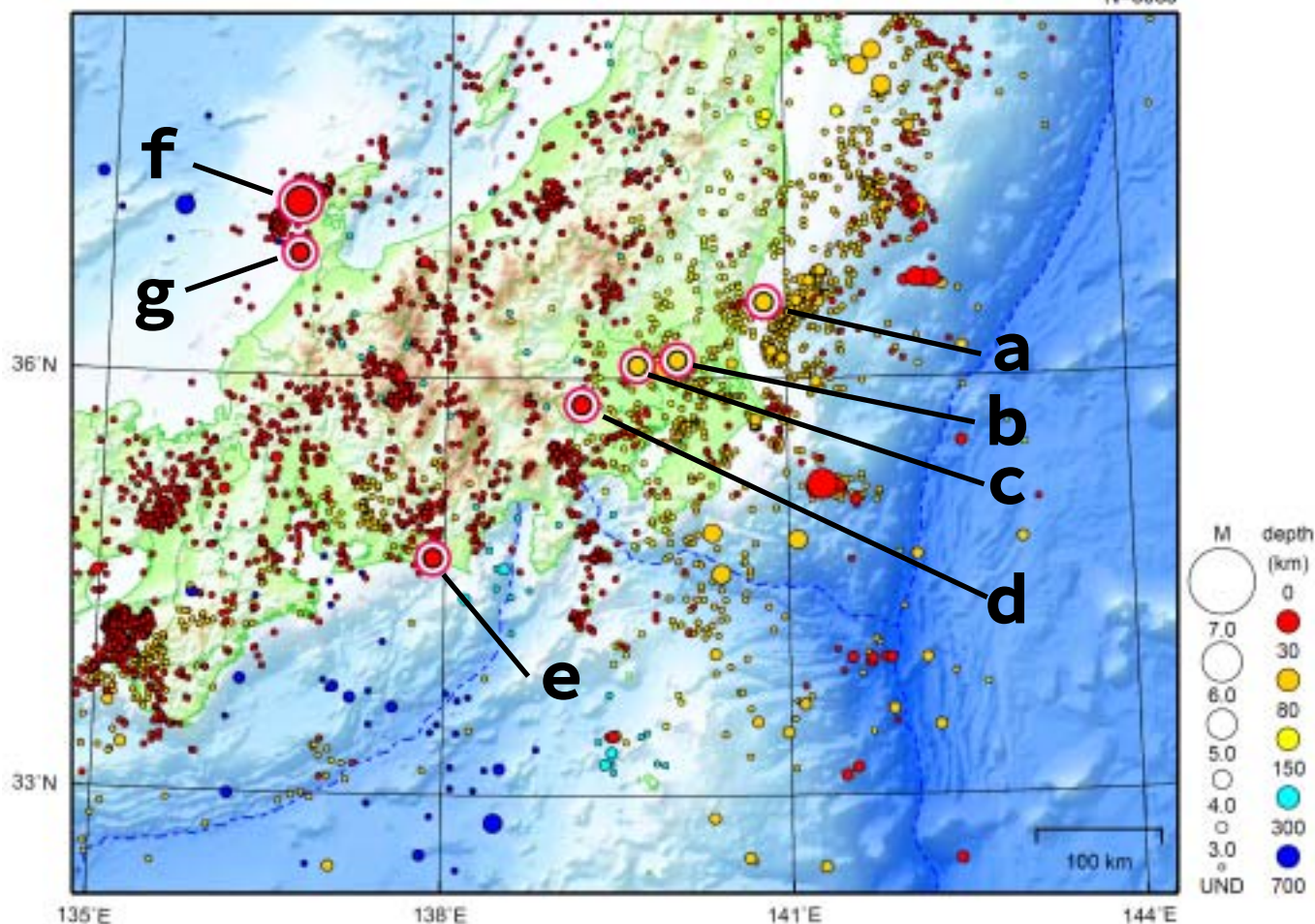
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

関東・中部地方

2007/06/01 00:00 ~ 2007/06/30 24:00

N=6063



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- a) 6月23日に茨城県沖で M4.2 (最大震度4) の地震があった。
- b) 6月2日に茨城県南部で M4.6 (最大震度4) の地震があった。
- c) 6月1日に埼玉県北部で M4.5 (最大震度3) の地震があった。
- d) 6月28日に東京都多摩西部で M4.1 (最大震度4) の地震があった。
- e) 6月1日に静岡県西部で M4.3 (最大震度4) の地震があった。
- f) 6月22日に石川県西方沖で M4.6 (最大震度4) の地震があった。
- g) 6月11日に能登半島沖で M5.0 (最大震度4) の地震があった。

(上記期間外)

7月3日に茨城・千葉県境付近〔茨城県南部〕で M4.5 (最大震度3) の地震があった。

〔 〕内は気象庁が情報発表に用いた震央地域名

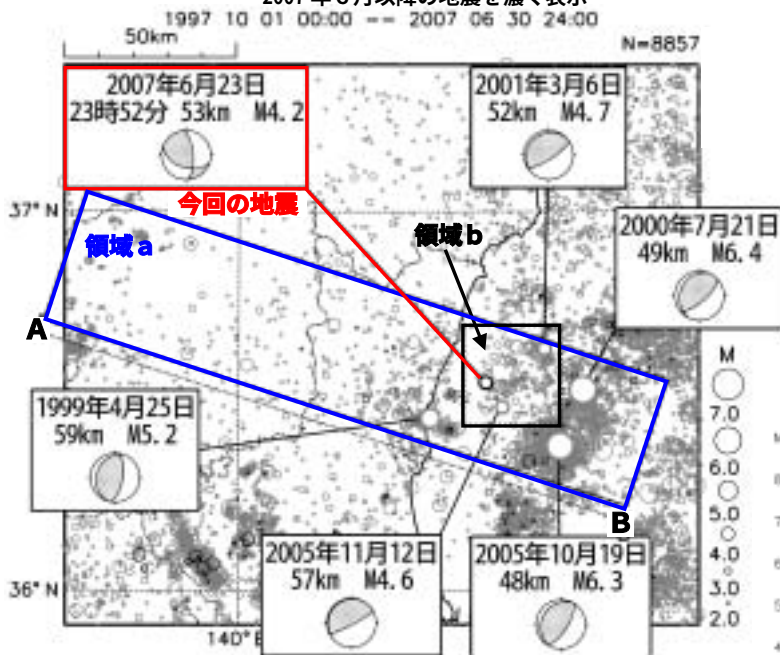
〔上述の地震は M6.0 以上または最大震度4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3 以上のいずれかに該当する地震。〕

気象庁・文部科学省

6月23日 茨城県沖の地震

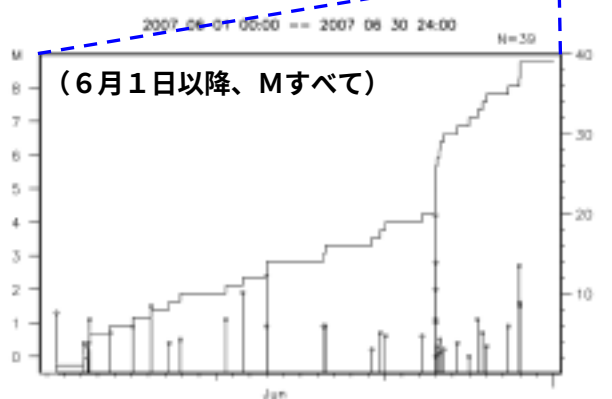
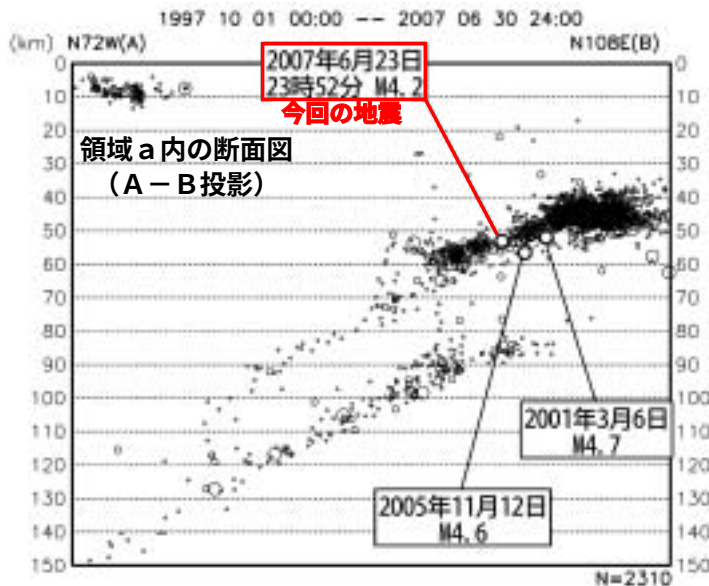
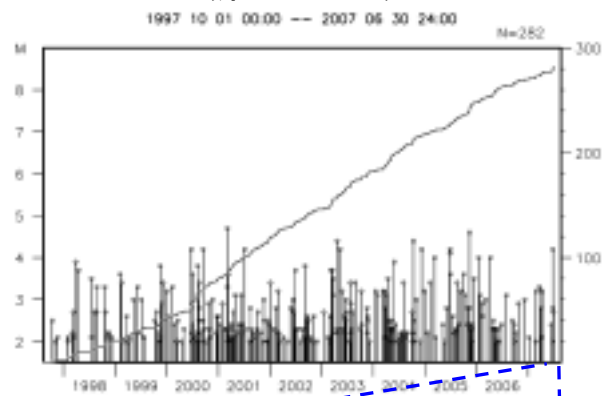
A 震央分布図（1997年10月以降、深さ150km以浅、M $\geq$ 2.0）

2007年6月以降の地震を濃く表示

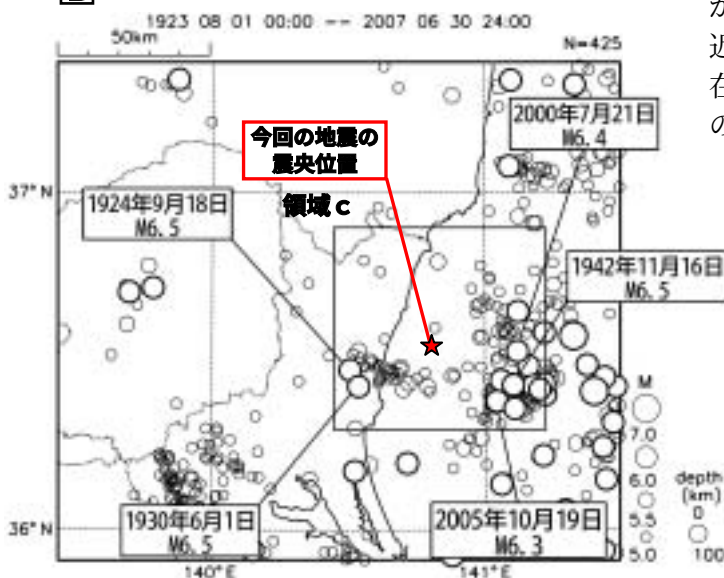


2007年6月23日23時52分に茨城県沖の深さ53kmでM4.2（最大震度4）の地震が発生した。発震機構は北東-南西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界付近で発生した地震である。（A）

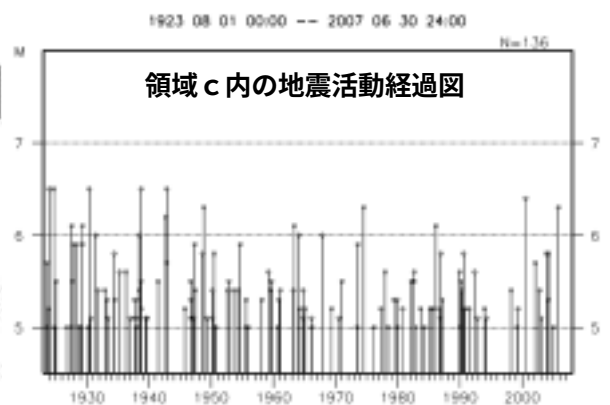
領域b内の地震活動経過図、回数積算図（深さ30~70km）



B 震央分布図（1923年8月以降、M $\geq$ 5.0）

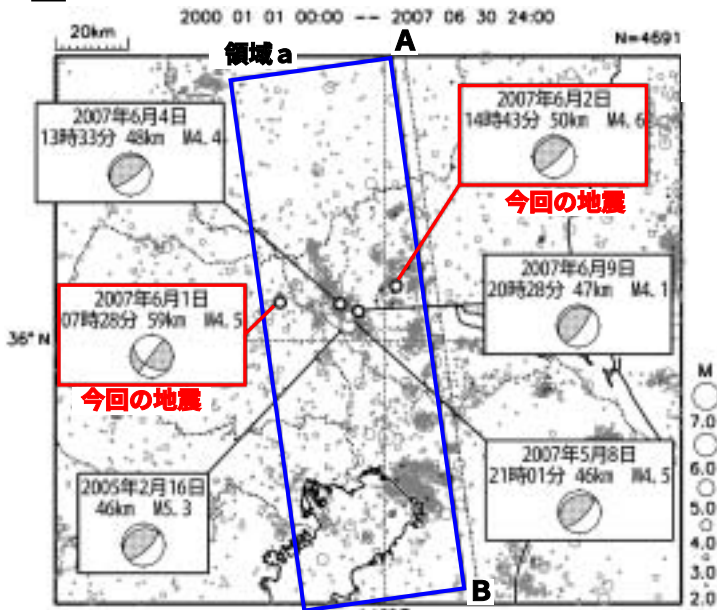


今回の地震の震央の東方にはM6クラスの地震が発生するクラスターが、また南西側の海岸線付近にはM5クラスの地震が発生するクラスターが存在するが、今回の地震の震源付近ではM5.0以上の地震はそれほど見られない。（B）



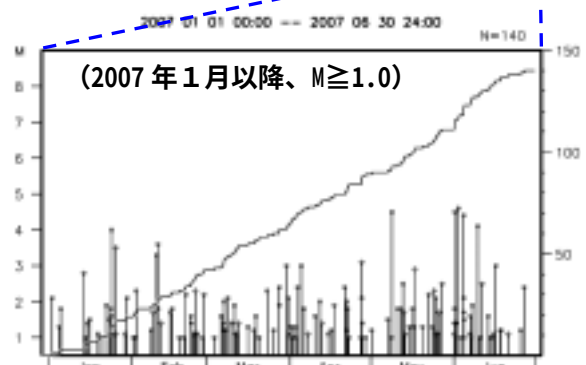
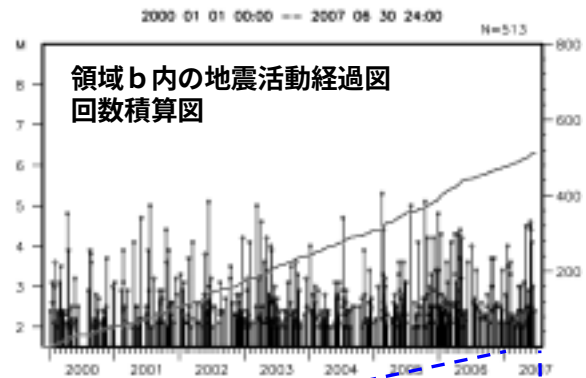
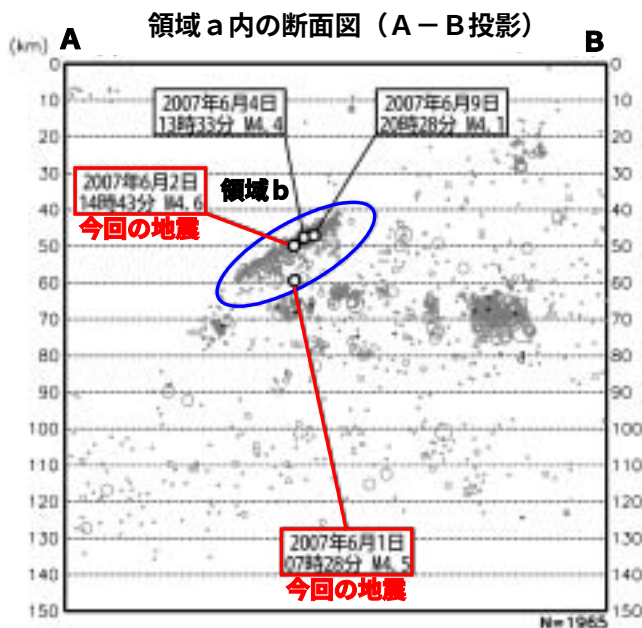
6月1日 埼玉県北部、6月2日 茨城県南部の地震

【A】 震央分布図 (2000年1月以降、150km以浅、 $M \geq 2.0$)

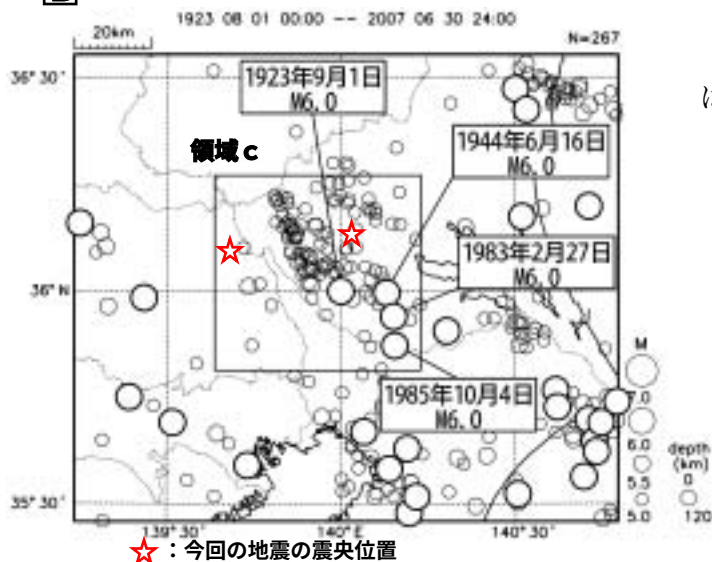


(2007年6月以降の地震を濃く表示している)

2007年6月1日07時28分に埼玉県北部の深さ59kmで $M4.5$ (最大震度3)、2日14時43分に茨城県南部の深さ50kmで $M4.6$ (最大震度4)の地震が発生した。2日の地震の発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートとの境界で発生した地震である。対して、1日の地震は、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生する地震活動域より深い場所で発生しており、発震機構が北北西-南南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であることから、フィリピン海プレート内部で発生した地震と考えられる。(【A】)



【B】 震央分布図 (1923年8月以降、 $M \geq 5.0$)

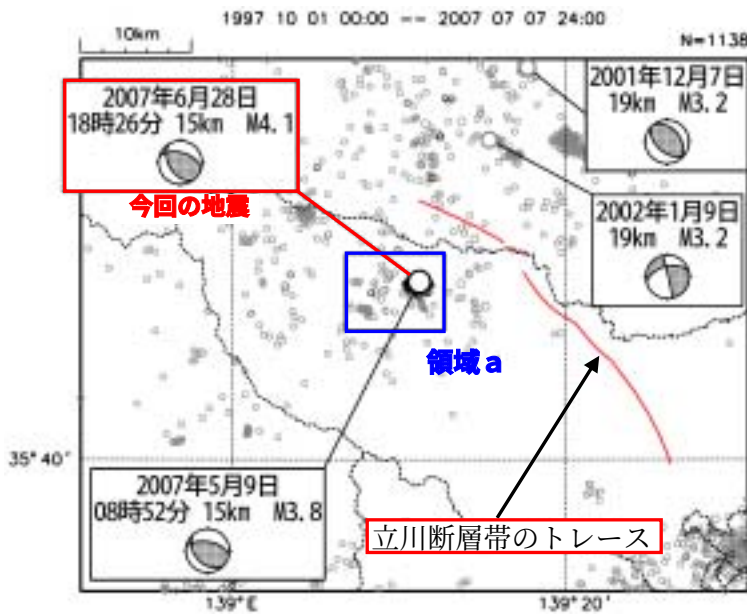


1923年8月以降、今回の地震の震央付近では、 $M6$ クラスの地震が時々発生している。(【B】)



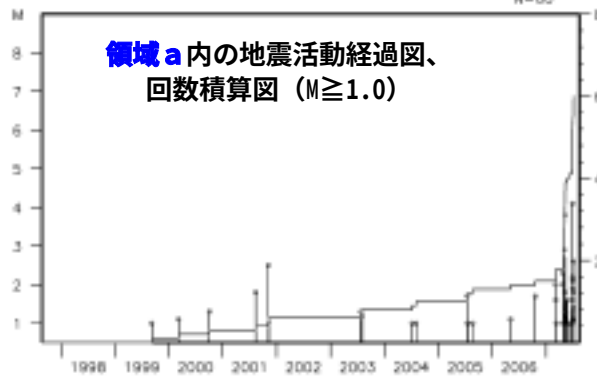
6月28日 東京都多摩西部の地震

震央分布図（1997年10月以降、Mすべて）

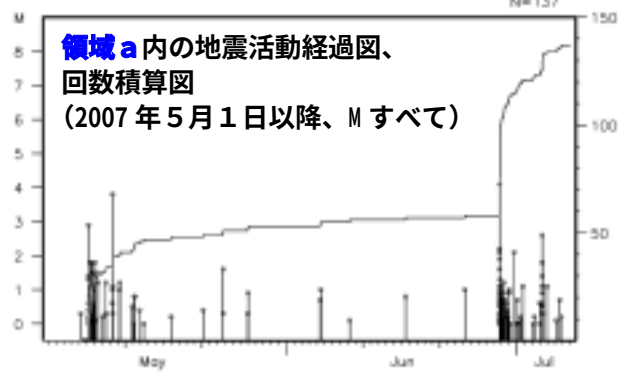


2007年6月28日18時26分に東京都多摩西部の深さ15kmでM4.1（最大震度4）の地震が発生した。発震機構は北東-南西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。余震活動は次第に収まりつつある。今回の地震の震源付近では、5月6日頃から小規模な地震活動が発生し、9日08時52分にはM3.8（深さ15km、最大震度2）の地震が発生していた。

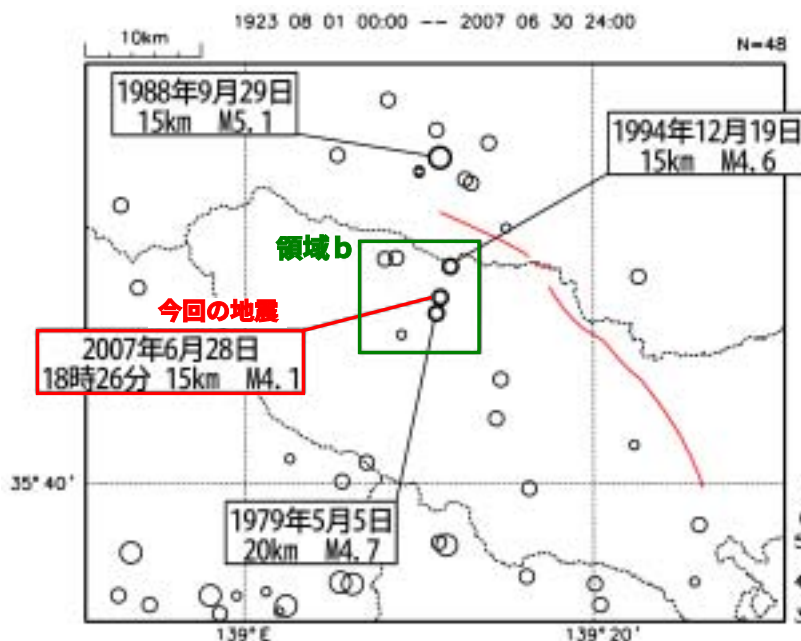
1997 10 01 00:00 -- 2007 07 07 24:00 N=60



2007 05 01 00:00 -- 2007 07 07 24:00 N=137

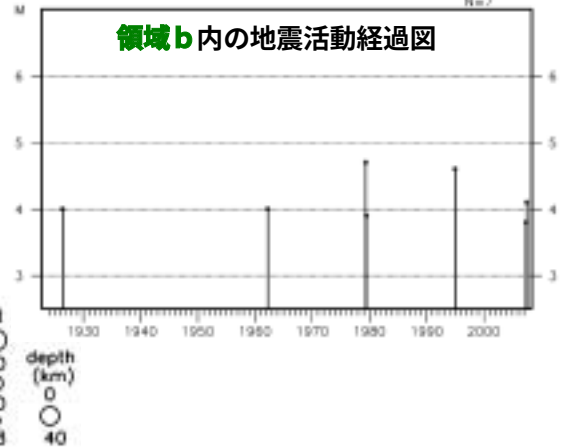


震央分布図（1923年8月以降、M≥3.8）



1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近では、10～15年に1回程度の割合でM4.0前後の地震が発生しているが、M5.0を超えるものはない。

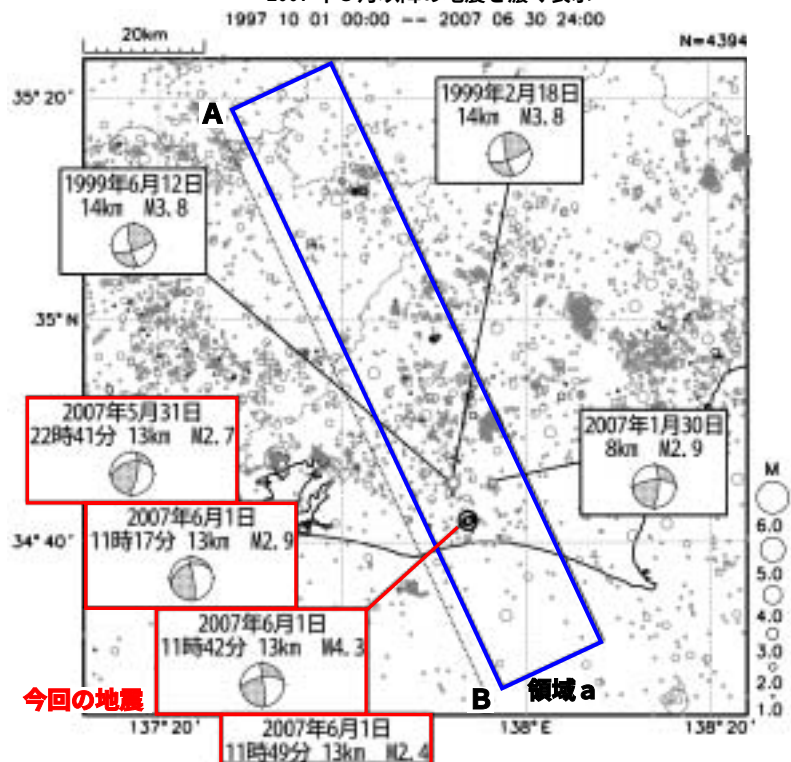
1923 08 01 00:00 -- 2007 06 30 24:00 N=7



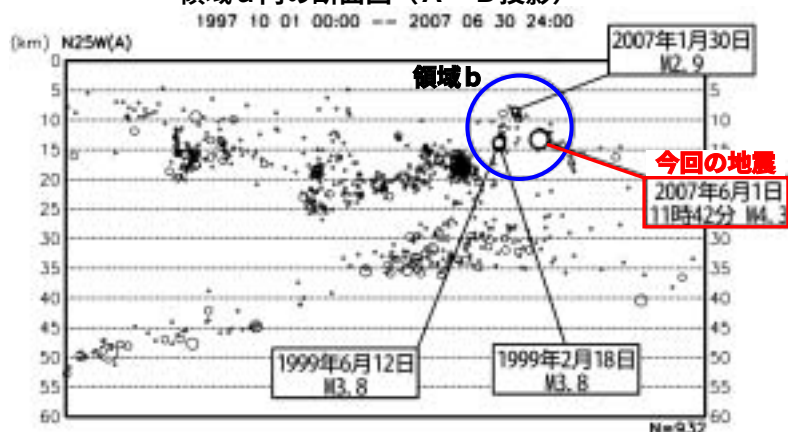
6月1日 静岡県西部の地震

A 震央分布図 (1997 年 10 月以降、 $M \geq 1.0$)

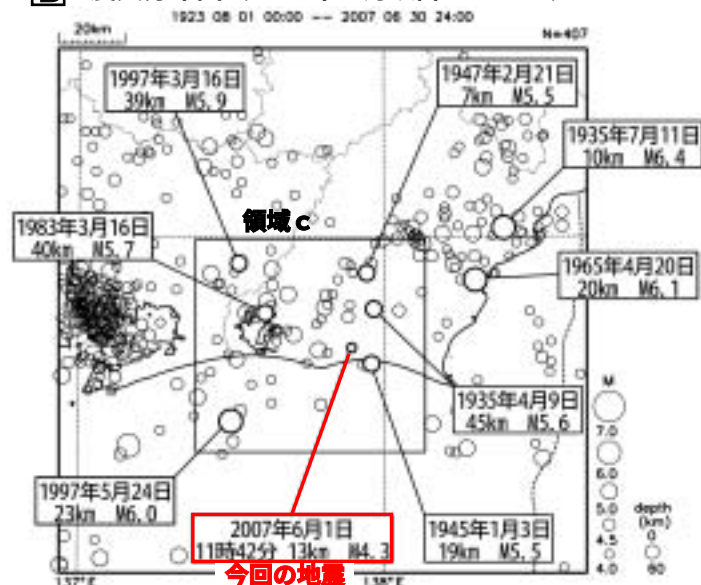
2007 年 5 月以降の地震を濃く表示



領域 a 内の断面図 (A-B 投影)

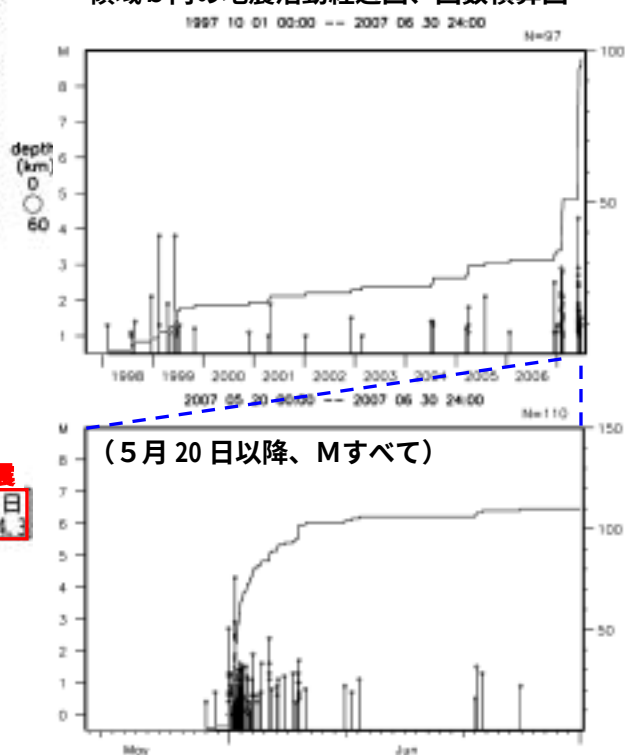


B 震央分布図 (1923 年 8 月以降、 $M \geq 4.0$)



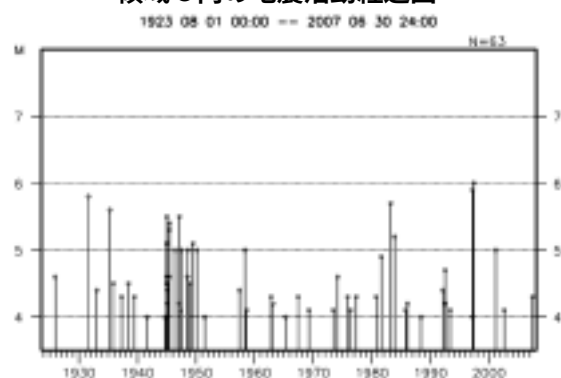
2007 年 6 月 1 日 11 時 42 分に静岡県西部の深さ 13km で $M4.3$ (最大震度 4) の地震が発生した。発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、地殻内で発生した地震である。今回の地震の震源付近では、5 月 30 日頃から小規模な活動が発生しており、5 月 31 日 22 時 41 分に $M2.7$ (最大震度 1) 6 月 1 日 11 時 17 分に $M2.9$ (最大震度 2) 6 月 1 日 11 時 49 分に $M2.4$ (最大震度 2) の地震が発生している。活動は 1 週間程度でほぼ収まった。(A)

領域 b 内の地震活動経過図、回数積算図



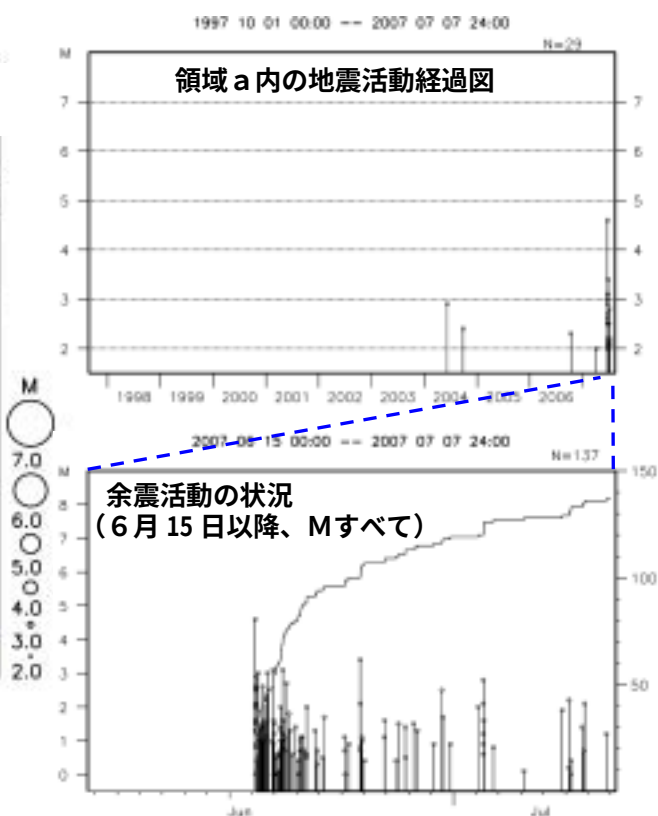
1923 年 8 月以降、今回の地震の震央付近では、 $M6.0$ クラスの地震が時々発生している。(B)

領域 c 内の地震活動経過図



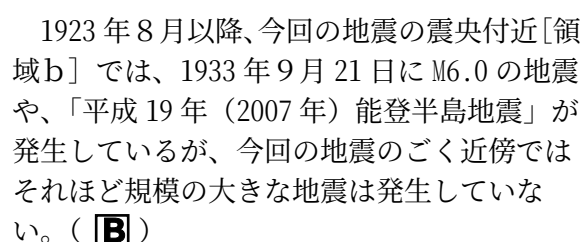
6月22日 石川県西方沖の地震

震央分布図 (1997 年 10 月以降、 $M \geq 2.0$)

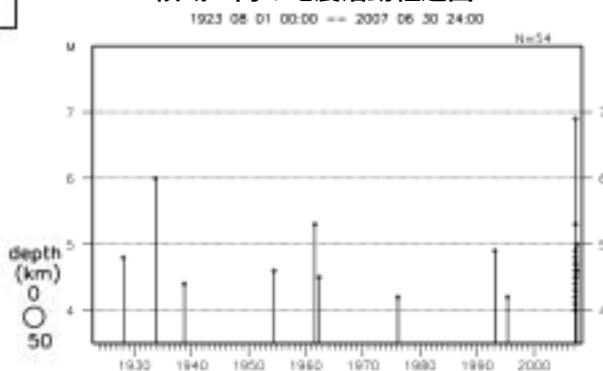


2007年6月22日03時34分に石川県西方沖の深さ8kmでM4.6（最大震度4）の地震が発生した。この地震は、「平成19年（2007年）能登半島地震」の余震域から南方に離れた場所で発生した。発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、付近でよく見られるタイプの地震である。余震活動は次第に減衰してきている。（**A**）

震央分布図 (1923 年 8 月以降、 $M \geq 4.0$)



領域b内の地震活動経過図

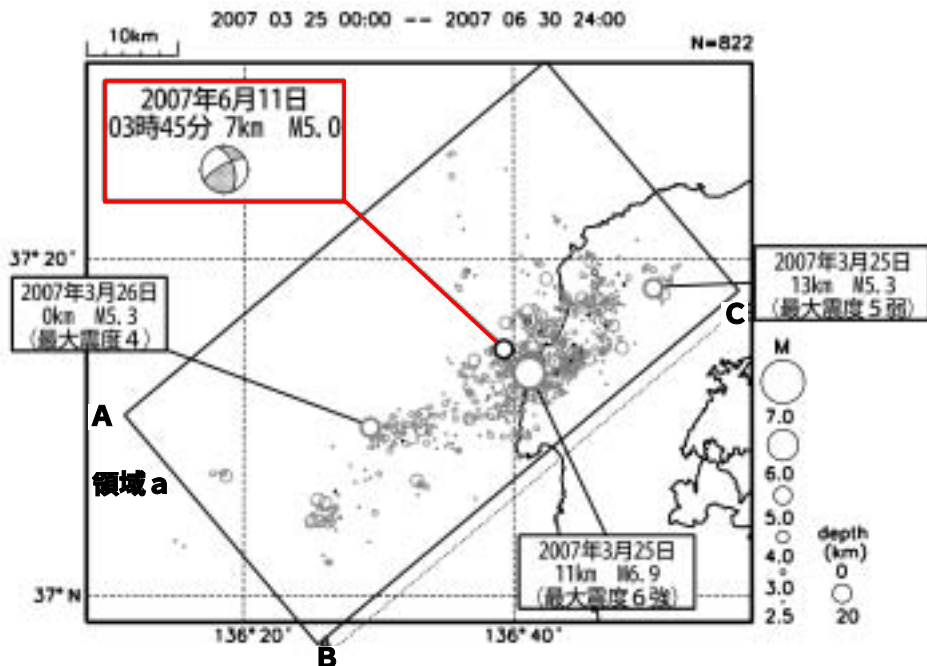


平成 19 年（2007 年）能登半島地震の余震活動

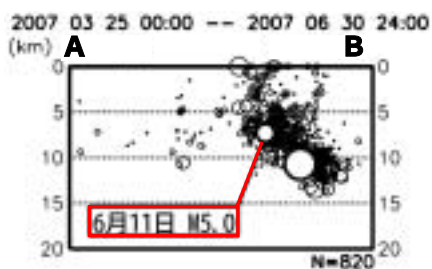
平成 19 年（2007 年）能登半島地震（M6.9）の余震活動は次第に減衰している。

6 月 11 日には本震の震源近傍で M5.0（最大震度 4）の地震が発生したが、余震活動に特段の変化はみられない。

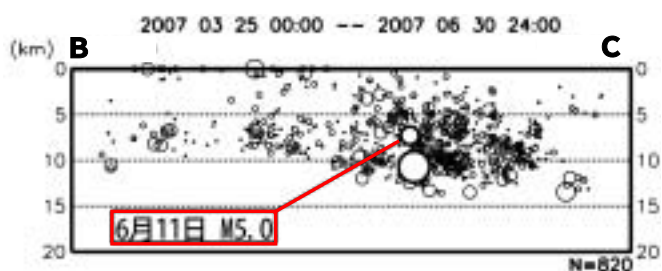
震央分布図（2007 年 3 月 25 日以降、 $M \geq 2.5$ ）
（6 月 1 日以降の地震を濃く表示）



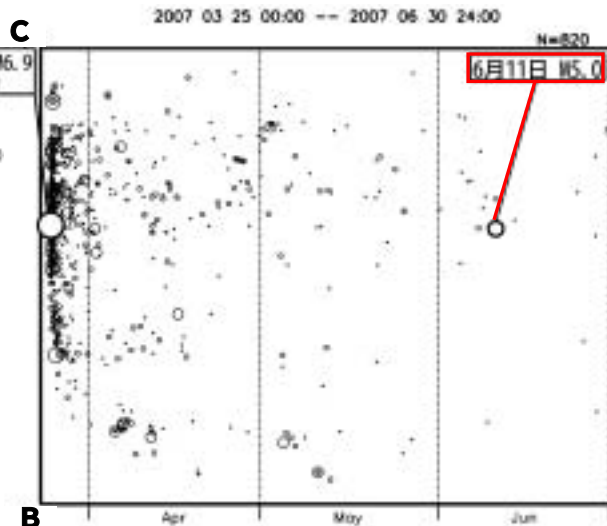
領域 a 内の断面図（A－B 投影）



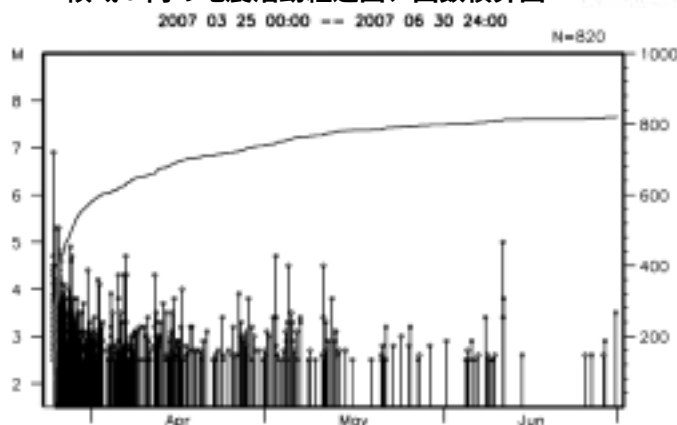
領域 a 内の断面図（B－C 投影）



領域 a 内の時空間分布図（B－C 投影）



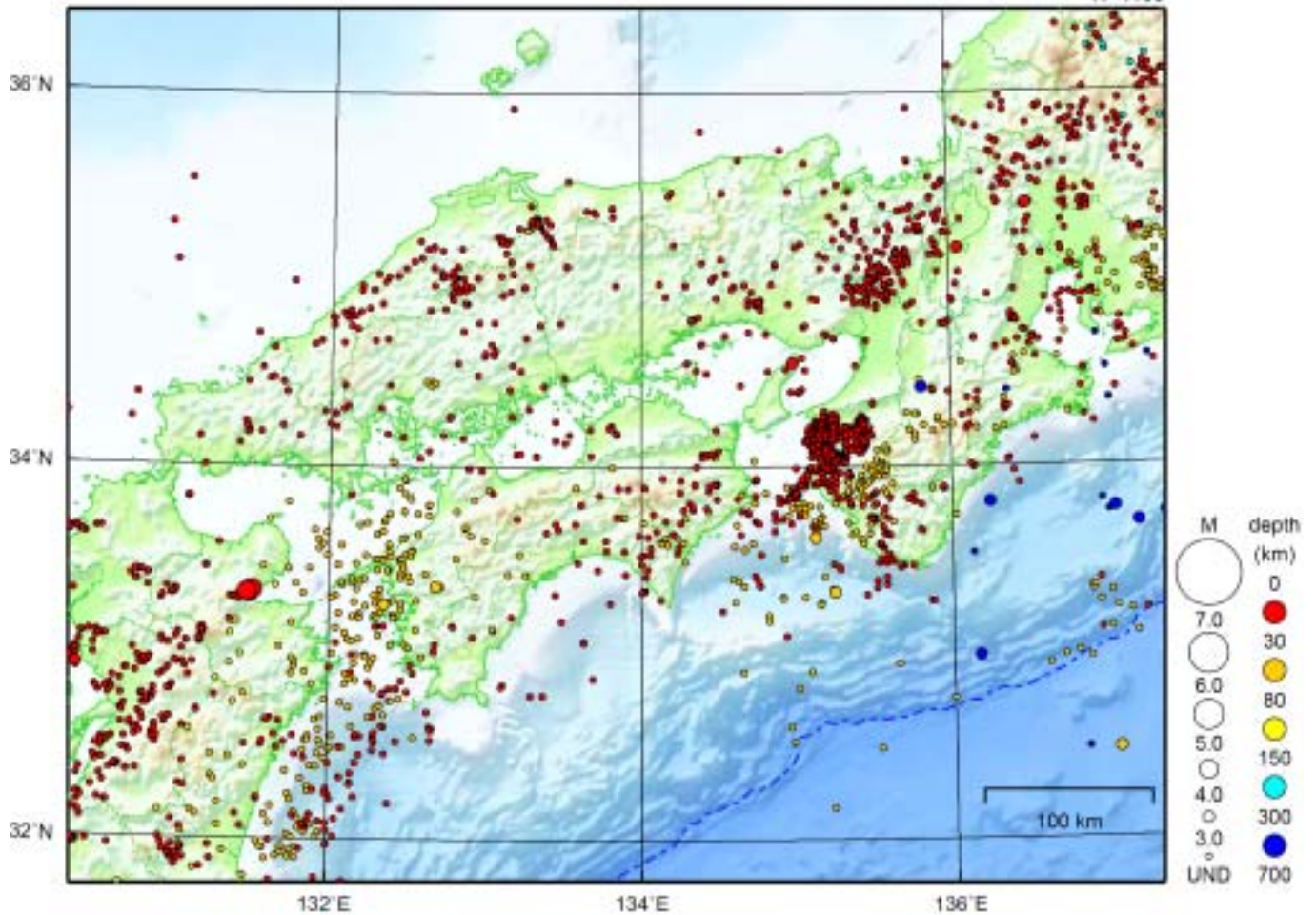
領域 a 内の地震活動経過図、回数積算図



近畿・中国・四国地方

2007/06/01 00:00 ~ 2007/06/30 24:00

N=4150



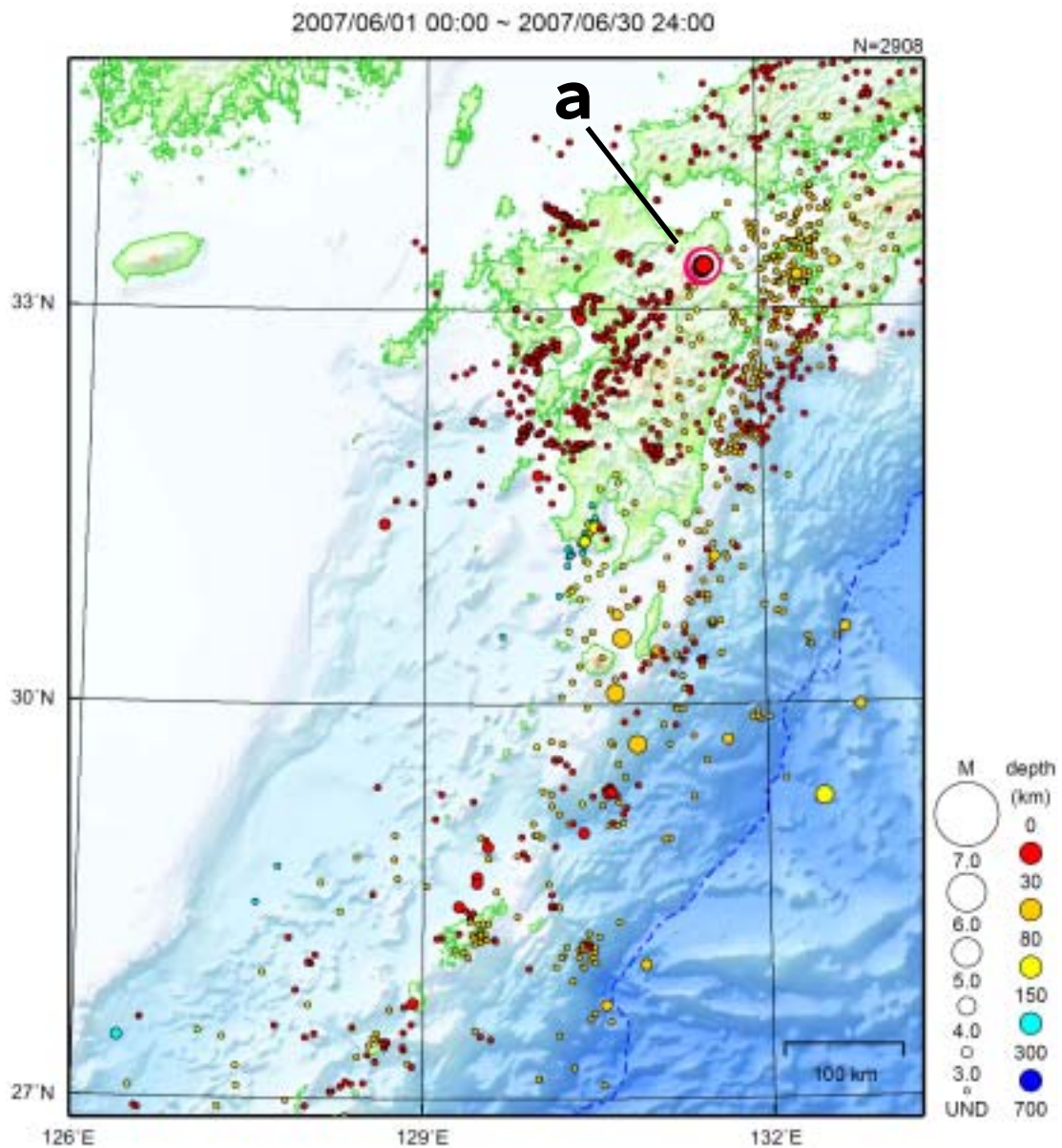
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

九州地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

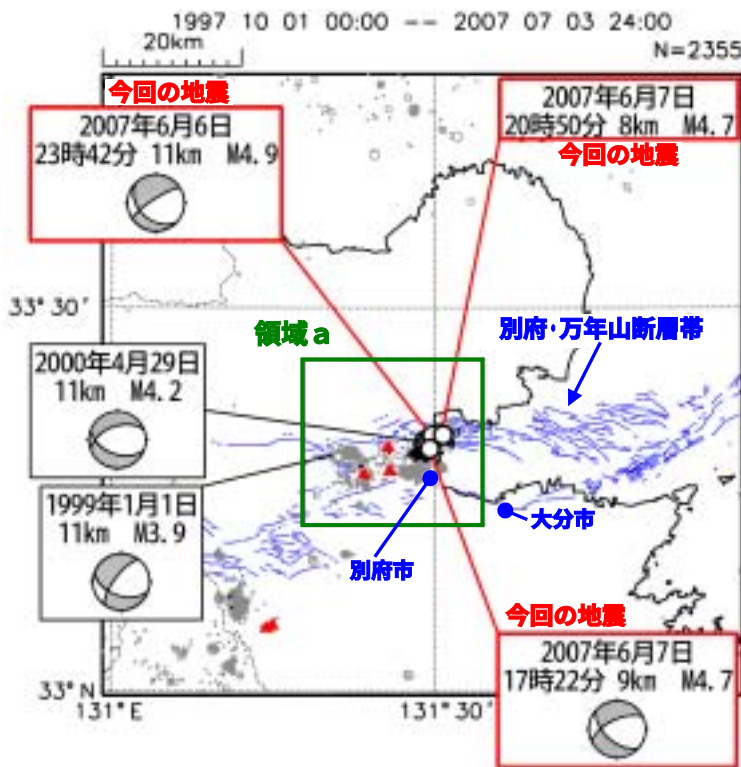
- a) 大分県中部で、M4.9（6月6日、最大震度4）を最大とする、まとまった地震活動があった。

〔上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。〕

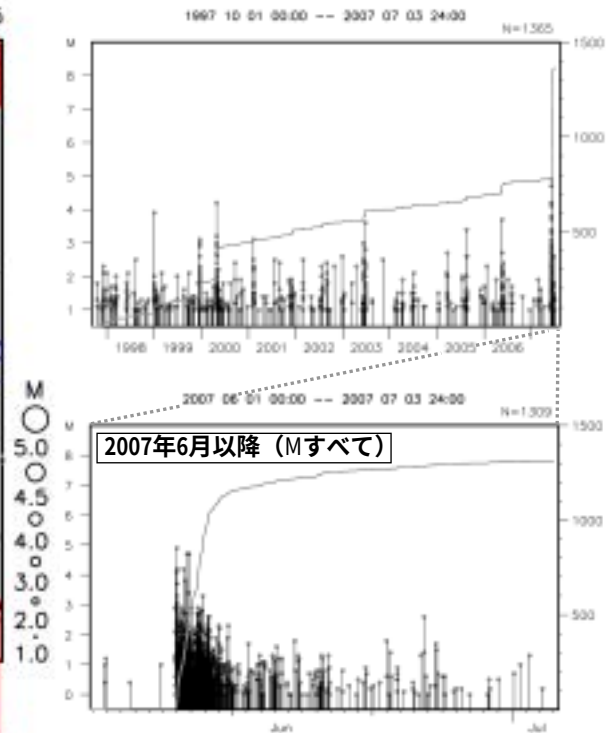
気象庁・文部科学省

6月6日、7日 大分県中部の地震活動

A 震央分布図（1997年10月以降、深さ30km以浅、 $M \geq 1.0$ ）



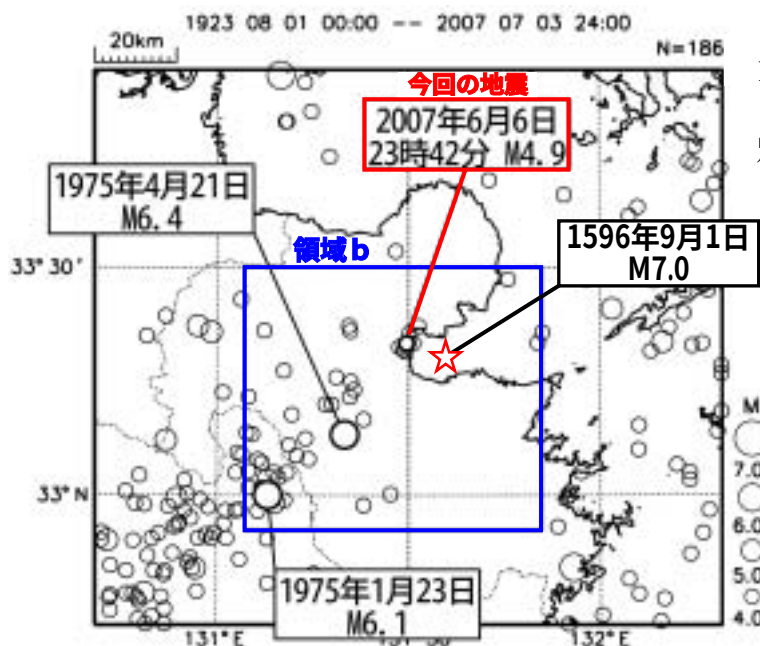
領域a内の地震活動経過図、回数積算図



2007年6月6日21時頃から、大分県中部でM4.9を最大とする地震活動が発生した。最大となる6日23時42分のM4.9（深さ11km、最大震度4）の地震の発震機構は南北方向に張力軸を持つ型で、地殻内で発生した地震である。地震活動は、翌7日17時22分にM4.7（深さ9km、最大震度4）、同20時50分にM4.7（深さ8km、最大震度4）の地震が発生するなど、数日間活発であったが、以後、次第に減衰してきている。

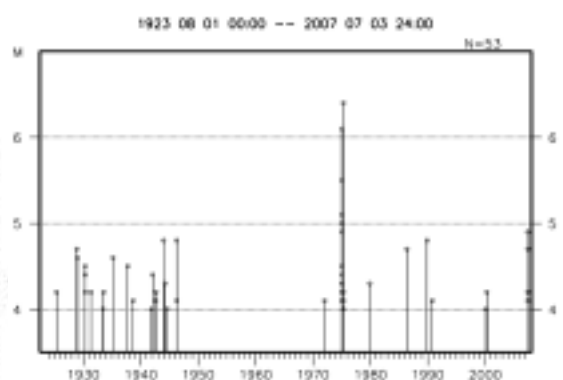
今回の活動の震央付近では、過去にも同様な活動が度々見られており、目立ったものとして2000年4月29日のM4.2（最大震度4）の地震を最大とする活動がある。（**A**）

B 震央分布図（1923年8月以降、深さ40km以浅、 $M \geq 4.0$ ）



1923年8月以降、今回の地震の震央周辺では、1975年4月21日に発生したM6.4の地震が最大である。なお、歴史記録等によると、1596年9月1日に別府湾でM7.0の地震が発生している。（**B**）

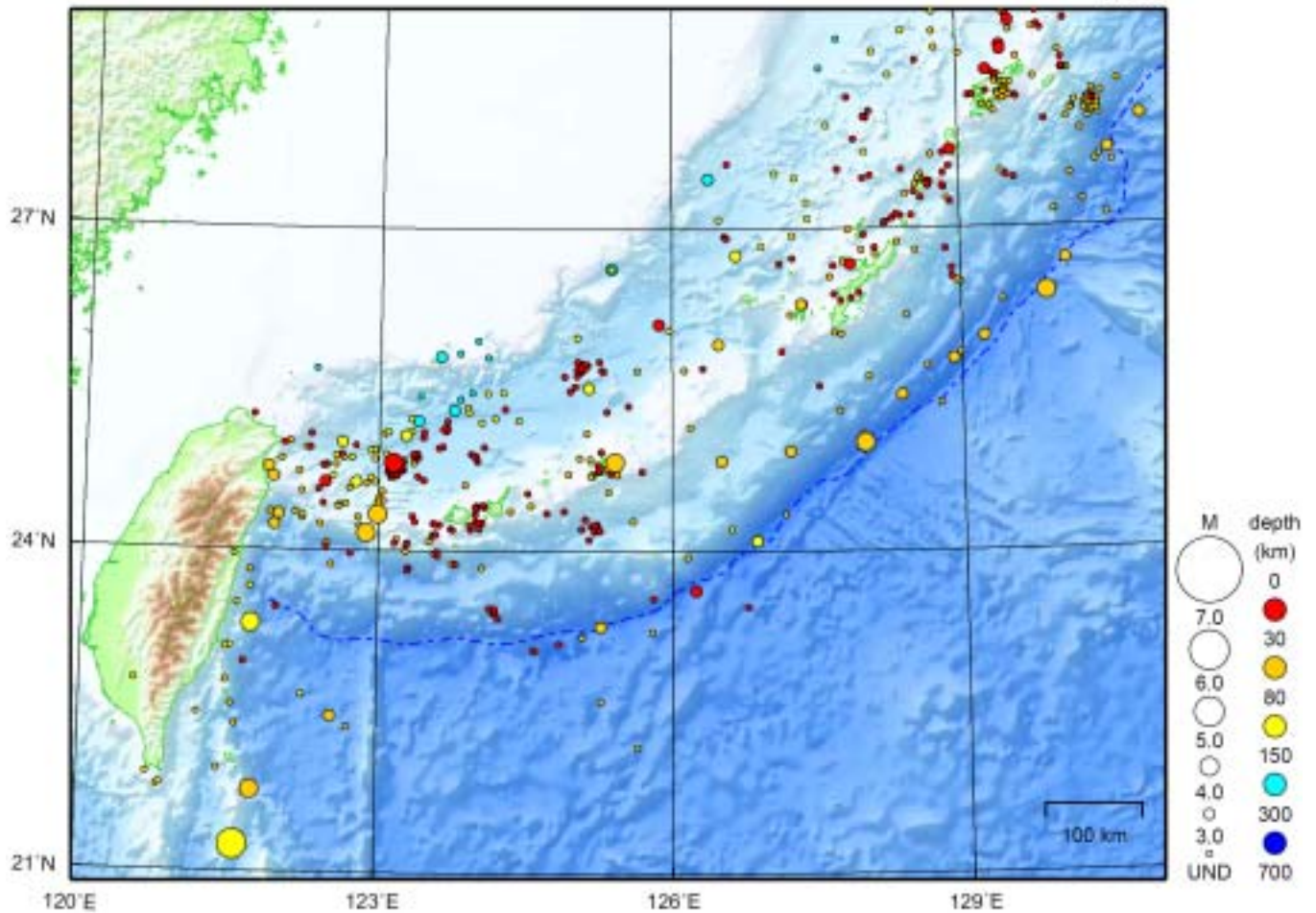
領域b内の地震活動経過図



沖縄地方

2007/06/01 00:00 ~ 2007/06/30 24:00

N=609



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

●東海地震の想定震源域及びその周辺の地震活動

[概況]

1日に静岡県西部の地殻内でM4.3（最大震度4）の地震が発生した。

15日頃から17日頃にかけて長野県南部で深部低周波地震活動が活発化し、短期的スロースリップ（ゆっくり滑り）の発生が観測された。

[地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果]

6月25日に気象庁において第253回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会（定例会）を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表した（図2～図6）。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖東方から静岡県中部の直下では通常より活動レベルの低い状態になっていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

東海地域及びその周辺の地殻変動には注目すべき特別な変化は観測されていません。

なお、6月15日から17日にかけて長野県南部直下プレート境界の短期的ゆっくり滑りに起因すると見られる低周波地震活動と地殻変動が観測されました。この付近では同様の現象が昨年8月～9月にも観測されています。

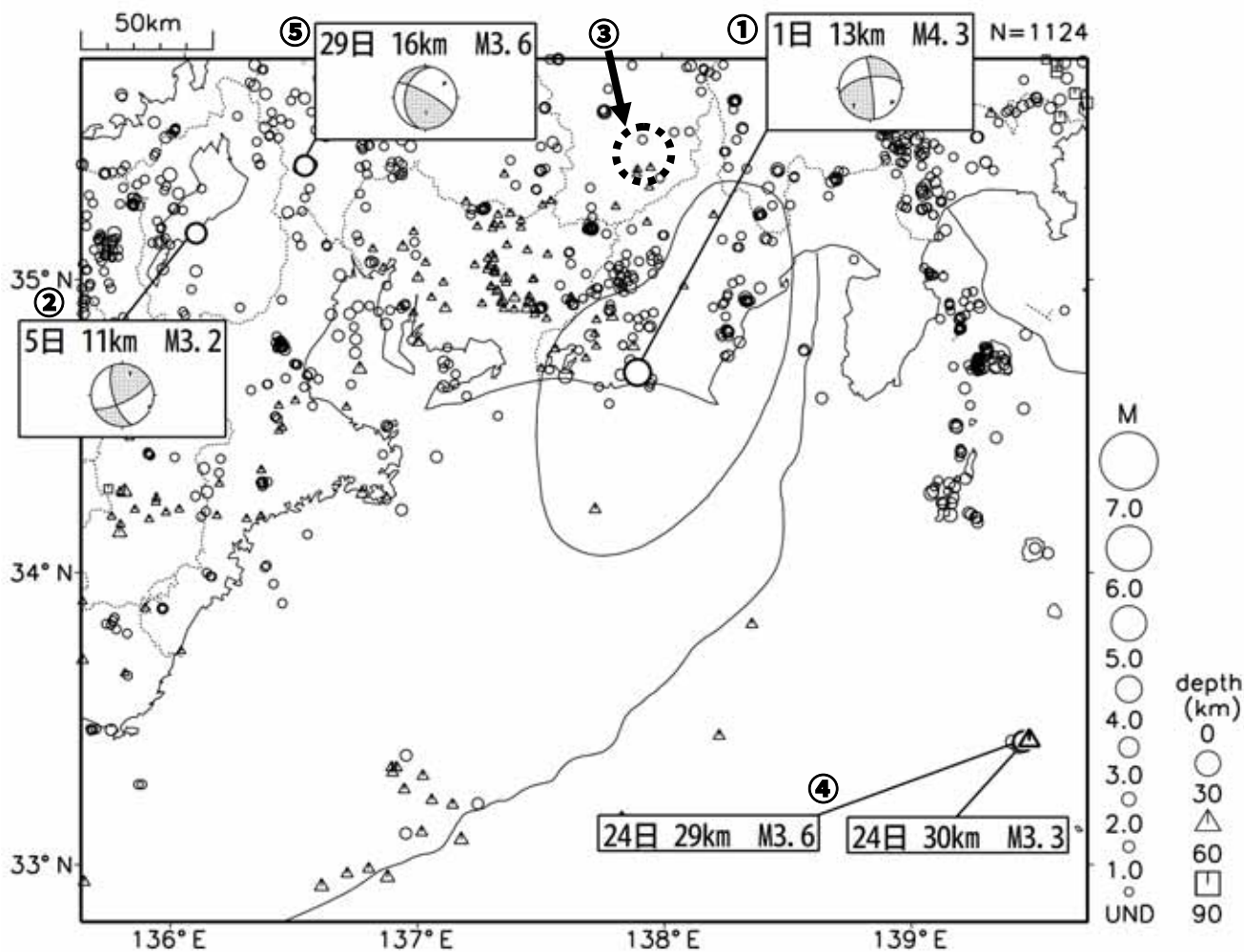


図1 震央分布図（2007年6月1日～30日：深さ90km以浅、Mすべて。M3.0以上の地震（東海道沖はM4.0以上）に「日、深さ、M」を付けた。すぐ下の図はP波初動による発震機構（下半球投影）。図中のナス型の領域は東海地震の想定震源域。）

- ① 1日11時42分、静岡県西部の深さ13kmでM4.3の地震があり、最大震度4を観測した。発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、陸域の地殻内で発生した地震である。
- ② 5日06時16分、滋賀県南部の深さ11kmでM3.2の地震があり、最大震度2を観測した。発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、陸域の地殻内で発生した地震である。
- ③ 15日頃から17日頃にかけて、長野県南部下のプレート境界の短期的なゆっくり滑りに起因すると見られる、歪変化と深部低周波地震活動が観測された。同様の現象は今年2月にも観測されている。(平成19年2月地震・火山月報(防災編)を参照。この現象の詳細に

については平成17年7月地震・火山月報(防災編)を参照。))。

- ④ 24日03時49分と04時00分、八丈島近海の深さ29kmおよび30kmでそれぞれM3.6とM3.3の地震があり、04時00分の地震で最大震度1を観測した。
- ⑤ 29日23時46分、岐阜県美濃中西部の深さ16kmでM3.6の地震があり、最大震度2を観測した。発震機構は北東－南西方向に圧力軸を持つ型(横ずれ成分を含む逆断層型)で、陸域の地殻内で発生した地震である。

注：本文中の番号は、図1中の数字に対応する。

[東海地域の地震活動の頁で使われる用語]

・「想定震源域」(図1)と「固着域」(図5)

東海地震発生時には、「固着域」(プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域)あるいはその周辺の一部からゆっくりしたずれ(前兆すべり)が始まり、最終的には「想定震源域」全体が破壊すると考えられている。

・「クラスタ除去」(図5、6)

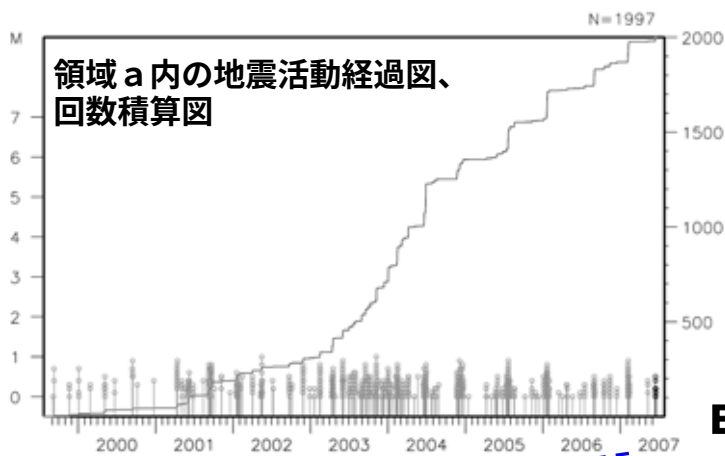
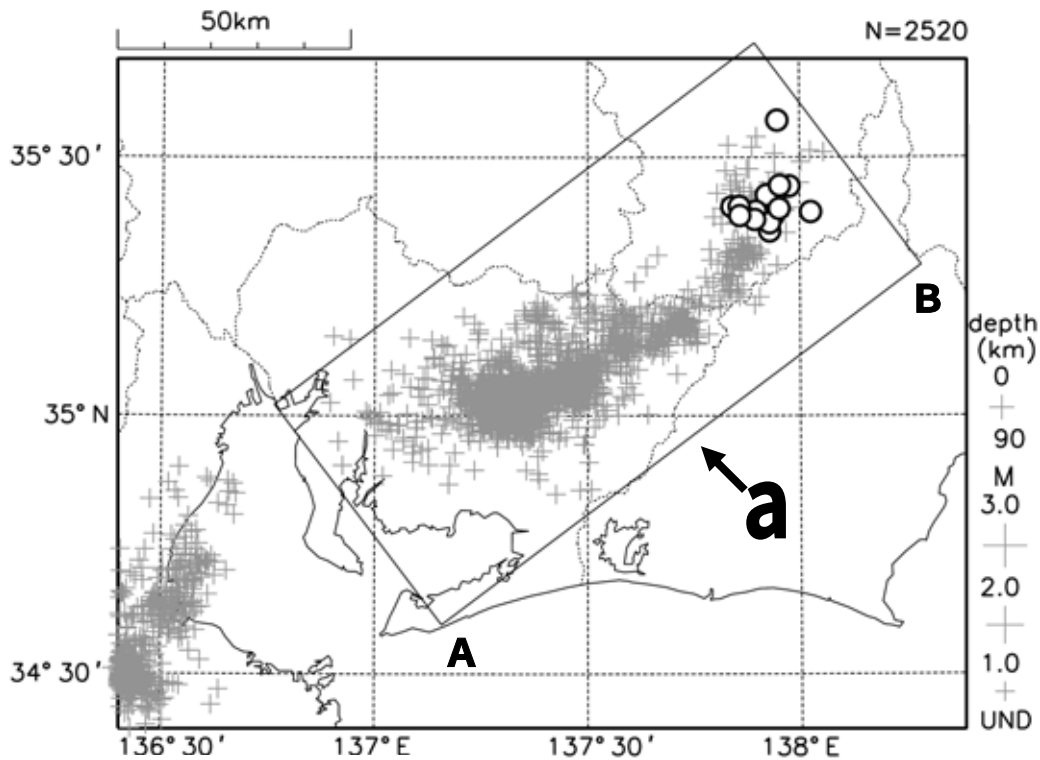
地震は時間空間的に群(クラスタ: cluster)をなして起きることが多くある。「本震とその後に起きる余震」、「群発地震」などが典型的な群(クラスタ)で、余震活動等の影響を取り除いて地震活動全体の推移を見ることを「クラスタ除去」と言う。震央距離が3km以内、発生時間差が7日以内の地震をクラスタと見なし、最大地震で代表させている。

大規模な地震から国民の生命・財産を保護することを目的として、昭和53年(1978年)12月に施行された「大規模地震対策特別措置法」では、大規模な地震の発生のおそれがあり、その地震によって大きな被害が予想されるような地域をあらかじめ「地震防災対策強化地域(以下、「強化地域」という。))として指定し、地震予知のための観測施設の整備を強化し、あらかじめ地震防災に関する計画をたてる等、各種の措置を講じることとしている。強化地域は平成14年(2002年)4月に見直しが行われ、現在、静岡県全域と東京都、神奈川・山梨・長野・岐阜・愛知及び三重の各県にまたがる173市町村(平成19年4月現在)が強化地域に指定されている。強化地域では、マグニチュード8クラスと想定されている大地震(東海地震)が起こった場合、震度6弱以上(一部地域では震度5強程度)になり、沿岸では大津波の来襲が予想されている。気象庁では東海地震の直前の前兆現象を捕らえるため、地震、地殻変動等の観測データを常時監視している。

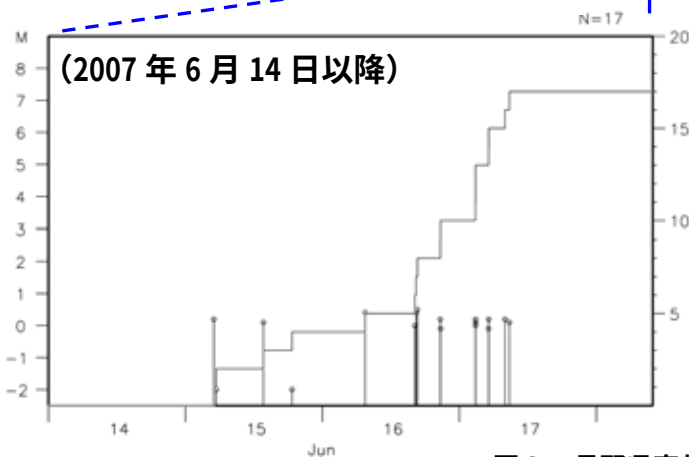
長野県南部の低周波地震活動

震央分布図

(低周波地震のみ、1999年9月1日～2007年6月18日09時、深さ0～90km、Mすべて)
[2007年6月14日以降の地震を濃い○で表示している。]



2007年6月15日頃から6月17日頃にかけて、長野県南部で低周波地震活動が活発化した。



領域 a 内の時空間分布図 (A-B投影、2007年6月14日以降)

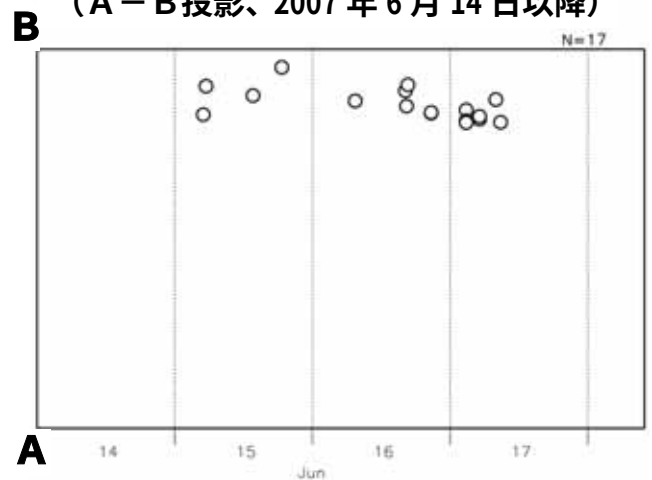


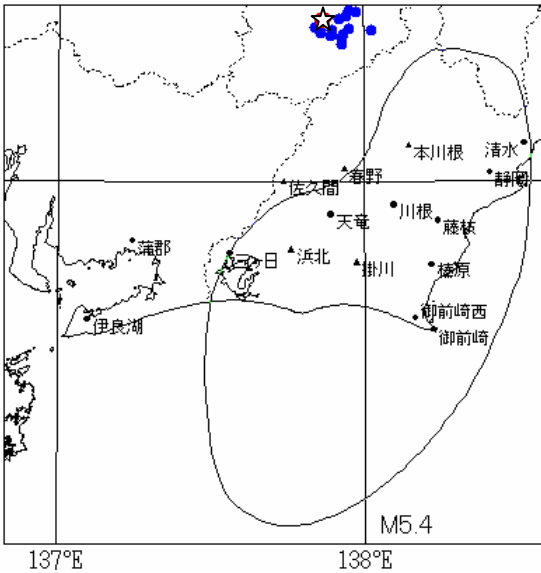
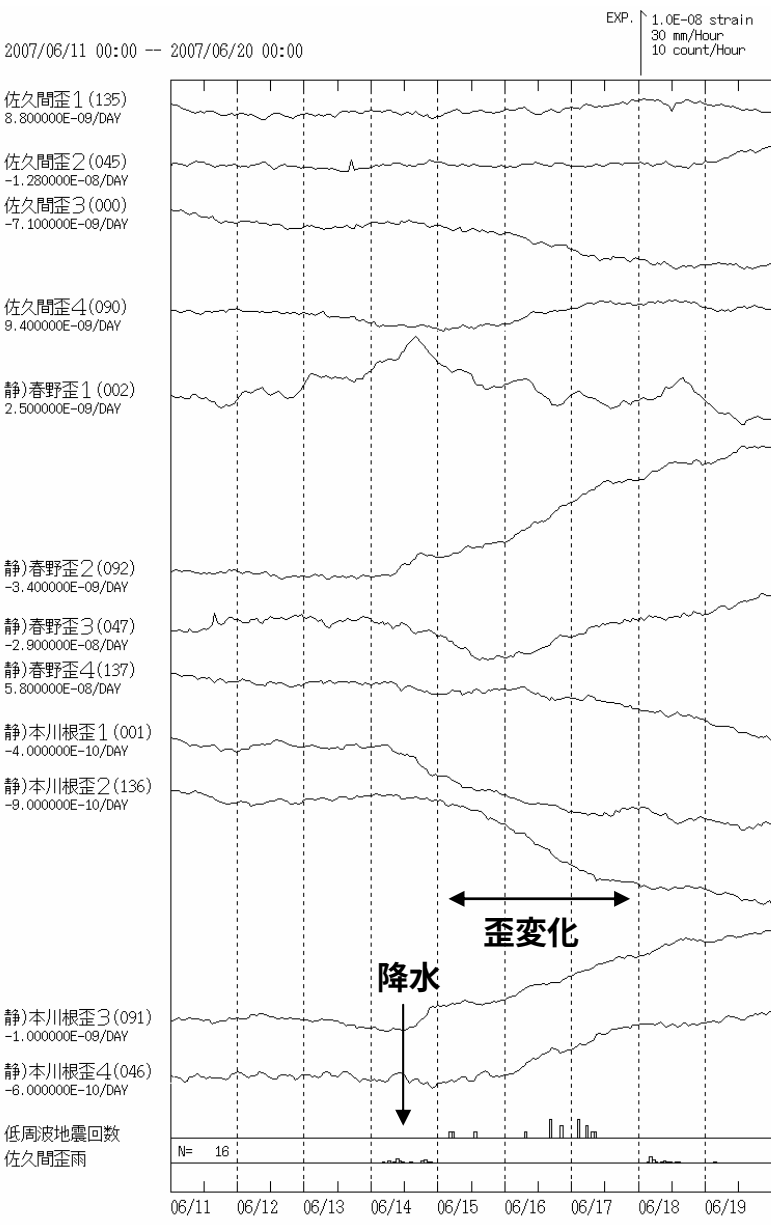
図2 長野県南部の低周波地震活動

2007年6月15日頃から17日頃にかけての長野県南部の低周波地震活動に伴う歪計の変化及び推定されるすべり候補点

本川根（静岡県整備）の歪計において、6月15日頃から17日頃にかけて、低周波地震活動と同期した最大で 1×10^{-8} strain程度の変化が認められた。佐久間、春野（静岡県整備）の歪計においてもごく微小な変化が認められた。

中村・竹中(2004)の方法を用いて、観測された歪変化については歪変化量の倍・半分の範囲、また歪変化が無かった地点については $\pm 1.0 \times 10^{-8}$ strainの範囲で条件を与え、すべり候補点を推定したところ、すべりの位置は低周波地震の発生領域とほぼ重なり、すべりの規模はMwで5.4であった。

昨年8月～9月や今年2月に発生した短期的スロースリップと比較してやや小さい。



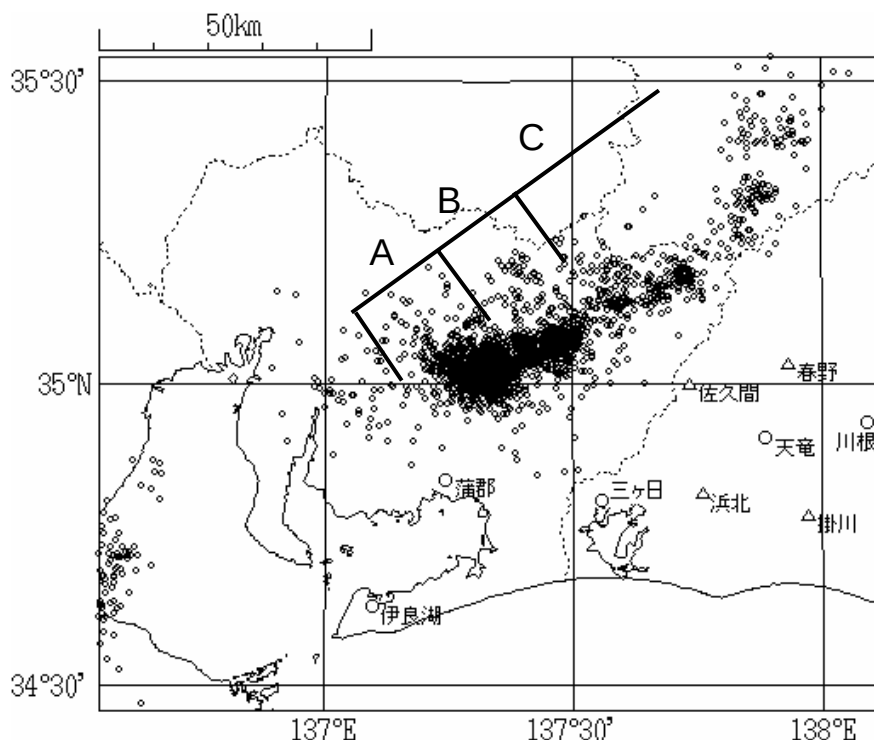
今回の歪変化より推定されるすべり候補点

- ：低周波地震の震源
- ★：すべり候補点
- ▲：推定に使用した観測点

2007年6月11日から6月20日にかけての歪計の時系列図
静)：静岡県設置の観測点

図3 2007年6月15日頃から17日頃にかけての長野県南部の低周波地震活動に伴う歪計の変化及び推定されるすべり候補点

東海地域の短期的スロースリップ(1999年9月以降)



東海地域の低周波地震の震央分布図(1999年9月1日～2007年6月20日)

A,B,Cは過去の短期的スロースリップ発生領域。 □:体積歪計△:多成分歪計

年	開始日	終了日	型	歪変化量 ($\times 10^{-8}$ strain)		推定された Mw
				蒲郡	佐久間	
1999	9/7	9/9	A	5	2 (3)	5.5～5.6
2000	2/26	2/27	A	3	1 (1,3)	5.5～5.6
2001	4/10	4/13	A	3	3 (3)	5.6
	6/2	6/5	C	-	3 (2)	5.7
	9/6	9/9	B	-	2 (2)	5.3～5.6
2002	9/22	9/24	B	-	2 (2)	5.3
	11/26	11/27	A	4	2 (3)	5.4～5.5
2003	2/14	2/16	B	-	3 (3)	5.4～5.6
	5/30	6/3	A	5	4 (4)	5.9
	9/16	9/17	B	-	1 (3)	5.3～5.5
	10/9	10/11	B	-	2 (3)	5.3～5.4
	11/6	11/8	A	4	2 (3)	5.7
2004	1/1	1/3	B	-	3 (3)	5.5～5.6
	2/9	2/11	C	-	1 (4)	5.5～5.6
	2/13	2/17	A	4	2 (3)	5.6
	4/3	4/7	B	-	1 (3)	5.2～5.3
	6/26	7/2	A	8	5 (3)	5.6～5.7
	11/21	11/26	B	-	2 (3)	5.2～5.7
	12/17	12/19	A	3	3 (4)	5.6
2005	5/28	5/30	C	-	1 (4)	5.4
	7/20	7/22	A	6	4 (3)	5.6～5.7
2006	1/16	1/22	A	10	3 (3)	5.7
	8/27	9/1	C	-	3 (4)	5.6～5.8
2007	2/5	2/13	A	10	4 (4)	5.9
	6/15	6/17	C	-	1(3)	5.4

東海地域の短期的スロースリップ一覧 (1999年9月以降)

型は上図のA,B,Cに対応。佐久間は4成分の内、最大の歪変化量、()内は成分を表す。

(気象庁・気象研究所作成)

図4 東海地域の短期的スロースリップ (ゆっくり滑り) [1999 年 9 月以降]

東海地域の地震活動指数

(クラスタを除いた地震回数による)

2007年6月20日 現在

	① 固着域		② 愛知県		③ 浜名湖			④ 駿河湾
	地殻内	フィリ ピン海 プレート	地殻内	フィリ ピン海 プレート	フィリピン海プレート内			全域
					西側	全域	東側	
短期活動指数	6	4	5	3	2	3	4	3
短期地震回数 (平均)	9 (6.31)	6 (5.90)	16 (13.23)	11 (14.08)	0 (2.46)	3 (5.91)	3 (3.45)	4 (6.06)
中期活動指数	7	4	5	2	1	1	3	2
中期地震回数 (平均)	27 (18.93)	17 (17.69)	45 (39.68)	34 (42.24)	1 (4.93)	5 (11.82)	4 (6.90)	7 (12.12)

* Mしきい値：

M $\geq$ 1.1：固着域、愛知県、浜名湖、M $\geq$ 1.4：駿河湾

* クラスタ除去：

震央距離が Δr 以内、発生時間差が Δt 以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

$\Delta r=3\text{km}$ 、 $\Delta t=7$ 日：固着域、愛知県、浜名湖

$\Delta r=10\text{km}$ 、 $\Delta t=10$ 日：駿河湾

* 対象期間：

短期：30日間（固着域、愛知県）、90日間（浜名湖、駿河湾）

中期：90日間（固着域、愛知県）、180日間（浜名湖、駿河湾）

* 基準期間：

1997年－2001年（5年間）：固着域、愛知県、1998年－2000年（3年間）：浜名湖

1991年－2000年（10年間）：駿河湾

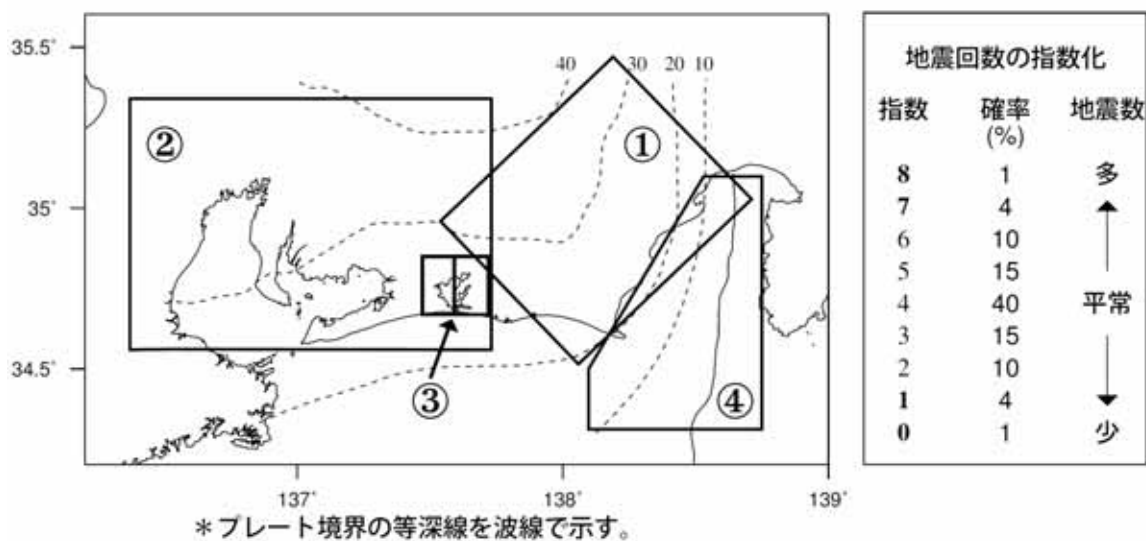


図5 東海地域の地震活動指数

浜名湖は、活動指数の低い状態が続いている。固着域の地殻内は中期活動指数がやや高かった。それ以外の地域は、ほぼ平常の活動であった。

浜名湖（フィリピン海プレート内）

1995/ 1/ 1~2007/ 6/20 M ≥ 1.1 * クラスタ除去したデータ

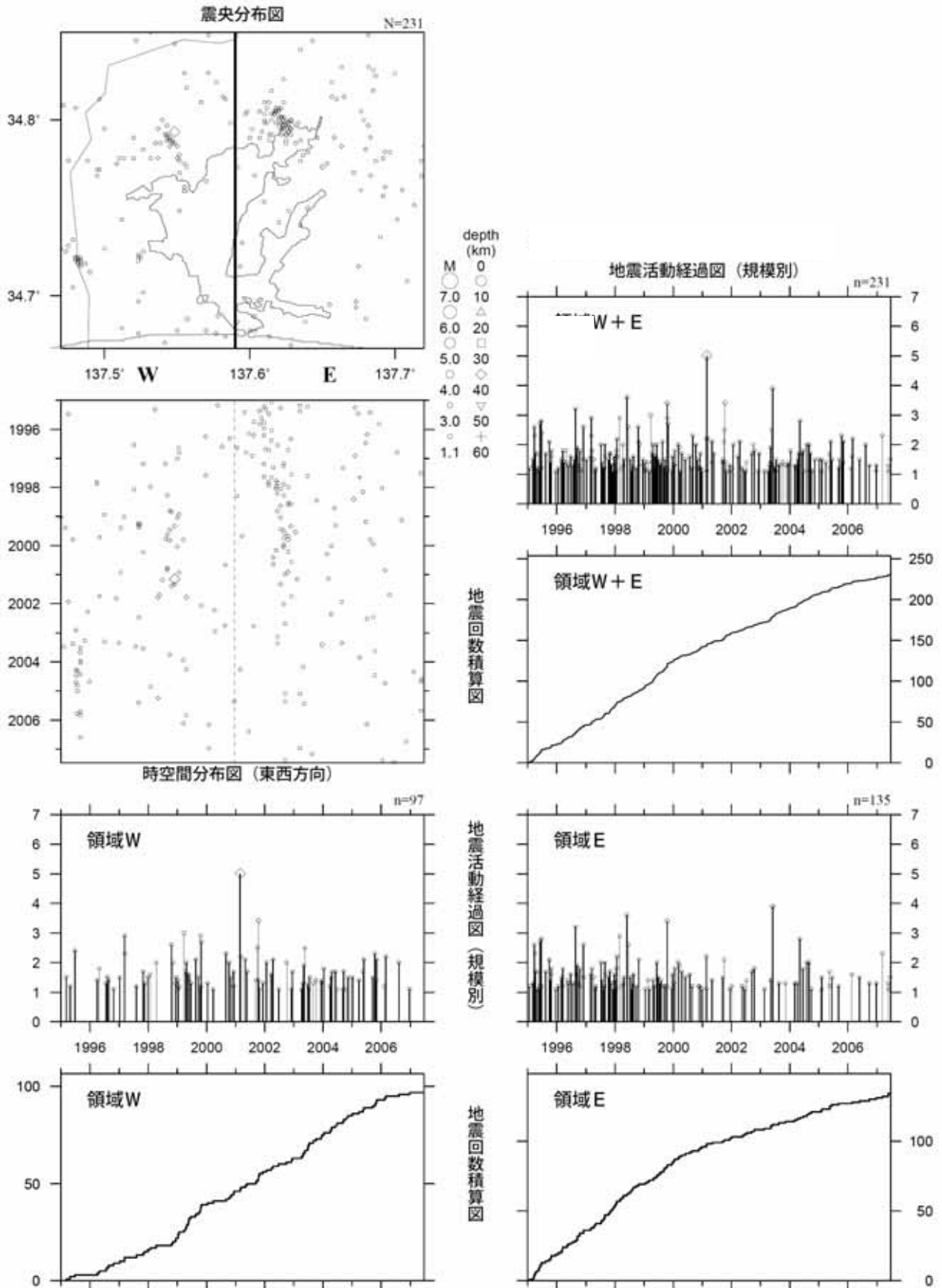


図6 浜名湖付近のフィリピン海プレート内の地震活動

領域Eでは2000年終わりごろからの活動の低下が継続している中、最近90日間で3回地震が発生した。領域Wも2006年以降、低調。

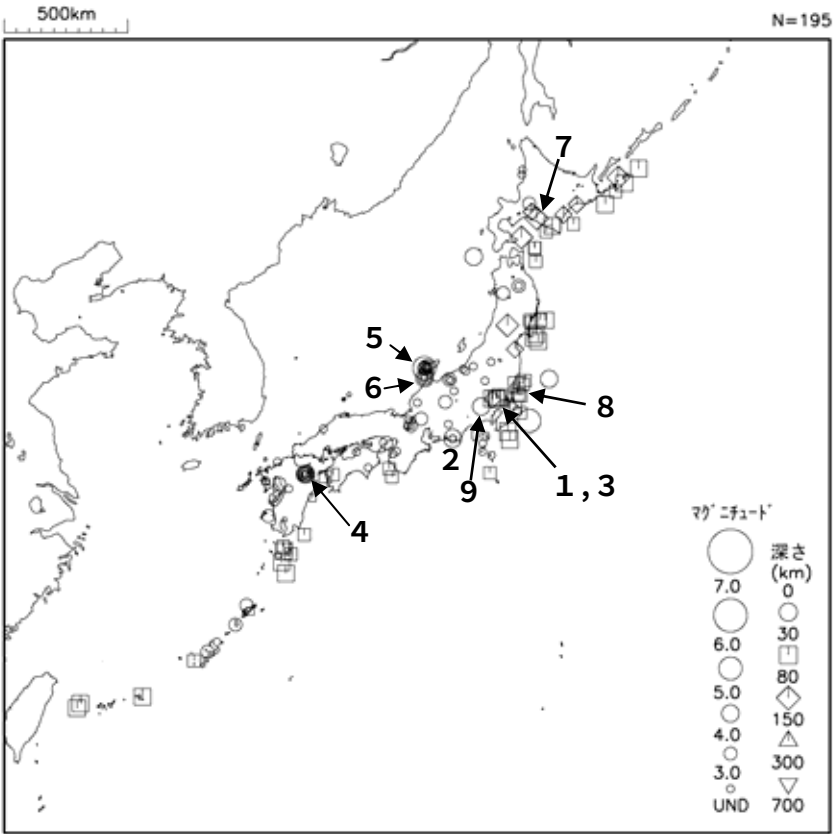


図1 2007年6月に震度1以上を観測した地震
(図中の番号は、別紙1の表のNoに対応する地震)

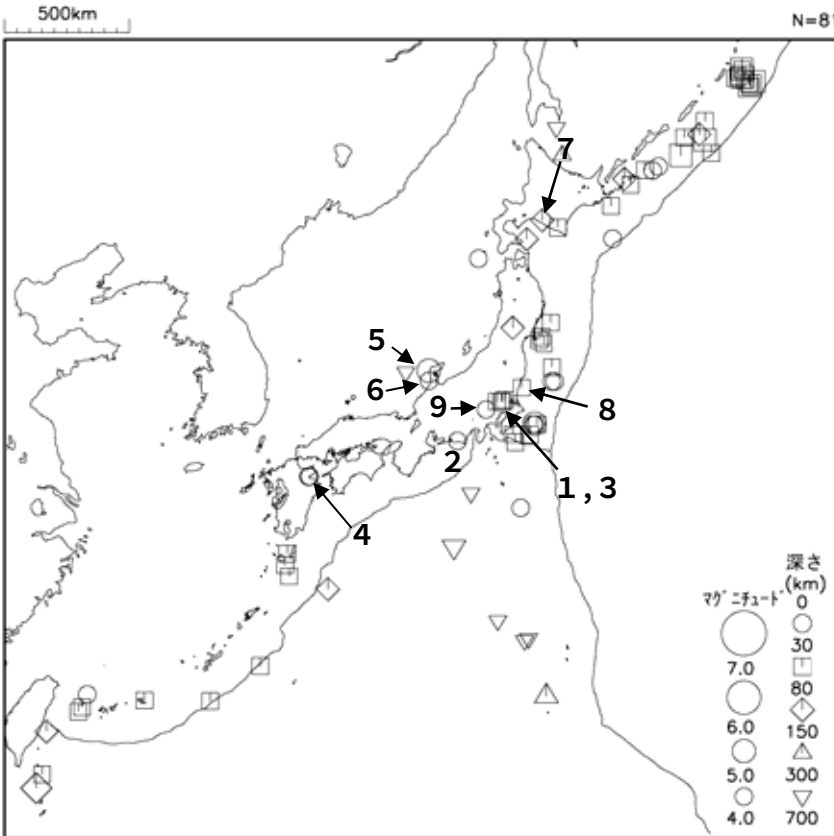


図2 2007年6月に発生した M4.0以上の地震
(図中の番号は、別紙1の表のNoに対応する地震)

総数：11,988

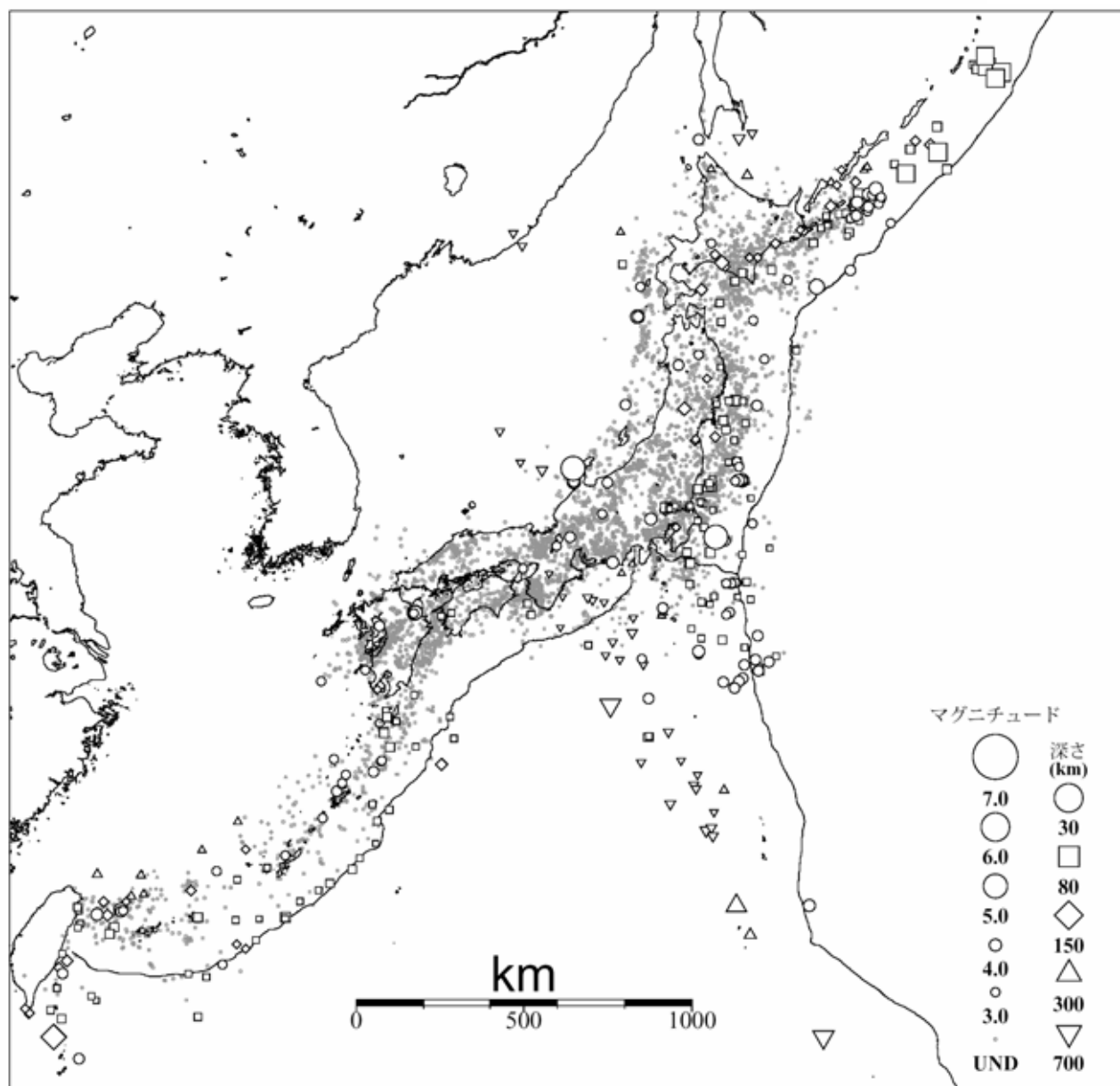


図3 気象庁が震源を決定した日本付近の2007年6月の地震の震央分布
(M3.0以上の地震については白抜きで示す)

● 表 1 . 過去 1 年間に震度 1 以上を観測した地震の最大震度別の月別回数
 <平成 18 年 (2006 年) 6 月～平成 19 年 (2007 年) 6 月>

	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	計	記事
2007年 6 月	126	47	13	9						195	大分県中部 (震度 4 : 3 回、震度 3 : 6 回、 震度 2 : 16 回、震度 1 : 39 回) 平成19年 (2007年) 能登半島地震の余震 (震度 4 : 1 回、震度 3 : 1 回、 震度 2 : 3 回、震度 1 : 6 回)
2007年 5 月	92	37	10	3						142	平成19年 (2007年) 能登半島地震の余震 (震度 4 : 1 回、震度 2 : 9 回、 震度 1 : 20 回)
2007年 4 月	135	47	23	7		1				213	15日 三重県中部 (震度 5 強) 平成19年 (2007年) 能登半島地震の余震 (震度 4 : 1 回、震度 3 : 7 回、 震度 2 : 20 回、震度 1 : 66 回)
2007年 3 月	280	105	35	8	3			1		432	平成19年 (2007年) 能登半島地震とその余震 (震度 6 強 : 1 回、震度 5 弱 : 3 回、 震度 4 : 6 回、震度 3 : 25 回、 震度 2 : 74 回、震度 1 : 213 回)
2007年 2 月	62	21	3	1						87	
2007年 1 月	63	28	10	1						102	新島・神津島近海 (震度 2 : 3 回、震度 1 : 11 回)
2006年12月	82	46	14	3						145	新島・神津島近海 (震度 4 : 1 回、 震度 3 : 6 回、震度 2 : 12 回、 震度 1 : 14 回)
2006年11月	98	22	11	4						135	新島・神津島近海 (震度 3 : 2 回、震度 2 : 2 回、 震度 1 : 8 回)
2006年10月	73	23	5	1						102	
2006年 9 月	64	21	11	1						97	
2006年 8 月	63	22	8	1						94	
2006年 7 月	82	24	12	3						121	新島・神津島近海 (震度 4 : 2 回、 震度 3 : 2 回、震度 2 : 5 回、 震度 1 : 15 回)
2006年 6 月	59	34	6	2	1					102	12日 大分県西部 (震度 5 弱)
2007年計	758	285	94	29	3	1		1		1171	(平成19年 1 月～平成19年 6 月)
過去 1 年計	1220	443	155	42	3	1		1		1865	(平成18年 7 月～平成19年 6 月)

注)①「記事」欄の「*」は関連の地震で震度 1 以上を観測した地震の回数。「記事」欄には主に震度 5 弱以上を観測した地震、
 または震度 1 以上を 10 回以上観測した地震活動について記載した。

②地方公共団体等の震度計による震度の発表開始年月日。

平成 9 (1997) 年 11 月 10 日 秋田県、埼玉県、横浜市 (神奈川県)、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県
 平成 10 (1998) 年 6 月 15 日 群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県、愛媛県
 10 月 15 日 青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、広島県、徳島県、熊本県、
 宮崎県、鹿児島県
 平成 11 (1999) 年 7 月 21 日 東京都、長野県
 平成 12 (2000) 年 1 月 12 日 栃木県、千葉県、岐阜県、名古屋市 (愛知県)
 3 月 28 日 滋賀県
 7 月 18 日 富山県、香川県、大分県
 平成 13 (2001) 年 3 月 22 日 佐賀県 5 月 10 日 山梨県、川崎市 (神奈川県)
 7 月 19 日 高知県 12 月 12 日 福島県
 平成 14 (2002) 年 3 月 20 日 岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県、仙台市 (宮城県)
 7 月 29 日 北海道、長崎県
 平成 15 (2003) 年 3 月 10 日 沖縄県
 平成 16 (2004) 年 5 月 26 日 独立行政法人防災科学技術研究所

● 表2．日本及びその周辺におけるマグニチュード(M)別の月別地震回数
 ＜平成18年(2006年)6月～平成19年(2007年)6月＞

	M3.0 ～ M3.9	M4.0 ～ M4.9	M5.0 ～ M5.9	M6.0 ～ M6.9	M7.0 以上	計 M3.0以上	計 M4.0以上	記事
2007年6月	268	70	11			349	81	
2007年5月	264	70	11			345	81	平成19年(2007年)能登半島地震の余震活動 (M3.0～3.9:20回、M4.0～4.9:3回)
2007年4月	374	110	33	3		520	146	20日:宮古島北西沖(M6.3,M6.7,M6.1) 平成19年(2007年)能登半島地震の余震活動 (M3.0～3.9:55回、M4.0～4.9:8回)
2007年3月	474	106	13	3		596	122	8日:鳥島近海(M6.0) 9日:日本海北部(M6.2) 25日:平成19年(2007年)能登半島地震(M6.9) 平成19年(2007年)能登半島地震の余震活動 (M3.0～3.9:231回、M4.0～4.9:29回、 M5.0～5.9:3回)
2007年2月	233	57	9	1		300	67	17日:十勝沖(M6.2)
2007年1月	244	113	24	2	2	385	141	13日:千島列島東方(M8.2) 14日:千島列島東方(M6.5) 25日:台湾付近(M6.1) 31日:マリアナ諸島(M7.1)
2006年12月	274	107	26	2	1	410	136	8日:千島列島東方(M6.4) 26日:台湾付近(M6.9、M7.2)
2006年11月	254	76	42	3	1	376	122	15日:千島列島東方(M7.9、M6.6) 16日:千島列島東方(M6.1) 18日:奄美大島近海(M6.0)
2006年10月	254	75	19	7		355	101	1日:千島列島東方(M6.8、M6.6) 9日:台湾南方沖(M6.1) 11日:福島県沖(M6.0) 12日:与那国島近海(M6.2) 13日:千島列島東方(M6.3) 24日:鳥島近海(M6.8)
2006年9月	268	62	10	1		341	73	28日:千島列島東方(M6.0)
2006年8月	263	57	10	1		331	68	7日:父島近海(M6.2)
2006年7月	232	40	3	1		276	44	28日:台湾付近(M6.2)
2006年6月	268	59	10	1		338	70	12日:大分県西部(M6.2)
2007年計	1857	526	101	9	2	2146	557	(平成19年1月～平成19年6月)
過去1年計	3402	943	211	24	4	4573	1171	(平成18年7月～平成19年6月)

注)日本及びその周辺:原則、北緯20～49度、東経120～154度の範囲。「記事」欄には主にM6.0以上の地震について記載した。

●世界の主な地震

6月に世界で発生したマグニチュード（M）6.0以上または被害を伴った地震の震央分布を図1に示す。また、その震源要素等を表1に示す。

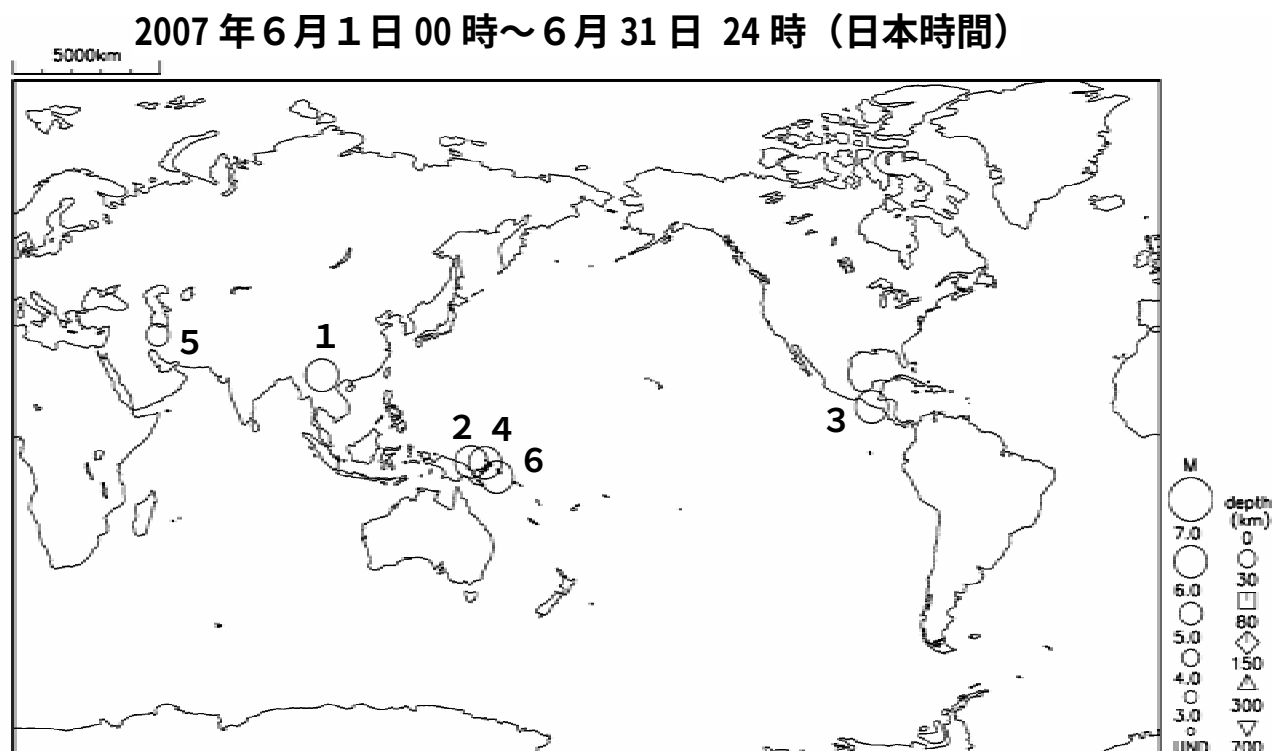


図1 2007年6月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震央分布

＜震源要素は米国地質調査所(USGS)発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による＞

*：数字は、表1の番号に対応する。

**：マグニチュードはmb（実体波マグニチュード）、Ms（表面波マグニチュード）のいずれか大きい値を用いて表示している。ただし、mb, Ms どちらの値も求められていない場合は Mw（モーメントマグニチュード）の値を用いて表示している。

***：日本付近で発生した地震については、震源要素及びマグニチュードは気象庁による。

表1 2007年6月に世界で発生したマグニチュード6.0以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	月 日 時	緯度	経度	深さ (km)	mb	Ms	Mw	震源地名	備考 (被害状況など)
1	06月03日06時34分	N23° 01.5'	E101° 04.8'	10	5.7	6.3	6.1	中国、ユンナン（雲南）省	死者3人、負傷者329人以上など
2	06月07日09時40分	S 3° 18.9'	E146° 45.0'	8	5.7	6.2	6.2	ビスマルク海	
3	06月14日04時29分	N13° 37.3'	W 90° 47.8'	23	6.0	6.5	6.5	グアテマラ沿岸	住家被害
4	06月18日15時18分	S 3° 34.3'	E151° 00.6'	10	5.7	6.2	6.1	パプアニューギニア、 ニューアイルランド	
5	06月18日23時29分	N34° 25.3'	E 50° 53.7'	5	5.5	4.8	5.5	イラン北・中部	建物被害
6	06月28日11時52分	S 7° 56.2'	E154° 36.9'	10	6.3	6.7	6.7	ブーゲンビル-ソロモン諸島	NWPTA発表

- ・震源要素、被害状況等は米国地質調査所(USGS)発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による（2007年7月4日現在）。
- ・時分は震源時で日本時間【日本時間＝協定世界時＋9時間】である。
- ・MwはUSGSのモーメントマグニチュードである。
- ・NWPTAは、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報である（地震・火山月報（防災編）2005年5月号参照）。

平成 19 年 6 月の主な火山活動

【噴火した火山】

▲ 桜 島 【比較的静穏な噴火活動（レベル 2）】

昭和火口では、小規模な噴火が時々発生していたが、22 日以降噴火は観測されていない。南岳山頂火口では 16 日と 21 日に爆発的噴火が発生した。

▲ 諏訪之瀬島 【活発な状況（レベル 3）】

1 日と 12 日に小規模な噴火が発生した。

【活発もしくはやや活発な状況の火山】

● 樺前山 【やや活発な状況】

A 火口及び B 噴気孔群は依然として高温の状態が続いていると推定される。

● 三宅島 【やや活発な状況】

多量の火山ガス放出が続いている。

● 硫黄島 【やや活発な状況】

国土地理院の観測によると、昨年 8 月以降、島北部を中心とした島全体の大きな隆起の地殻変動は鈍化しながらも継続している。

● 福徳岡ノ場* 【やや活発な状況】

25 日に海上自衛隊が、27 日に第三管区海上保安本部が上空から行った観測によると、火山活動によると見られる変色水が確認された。

● 薩摩硫黄島 【やや活発な状況（レベル 2）】

噴煙活動はやや活発で、火山性地震のやや多い状態が続いている。

● 口永良部島 【やや活発な状況（レベル 2）】

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながら、やや多い状態が続いている。

※ 海底火山

注 1 本資料で示すレベルとは、現在 12 火山に導入している火山活動度レベルをいう。

注 2 火山名に下線を引いた火山について、説明資料（火山活動解説資料）を配布。

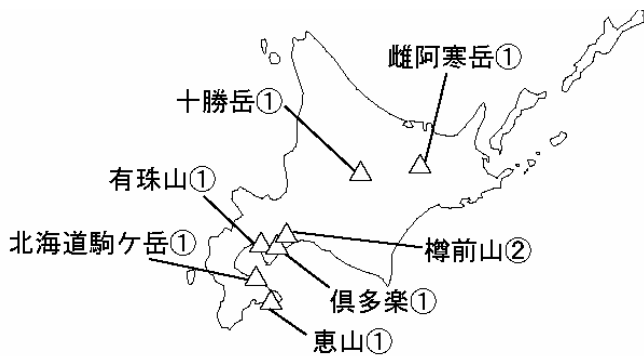
注 3 記号の意味

▲：噴火した火山 ●：活動が活発もしくはやや活発な状況の火山

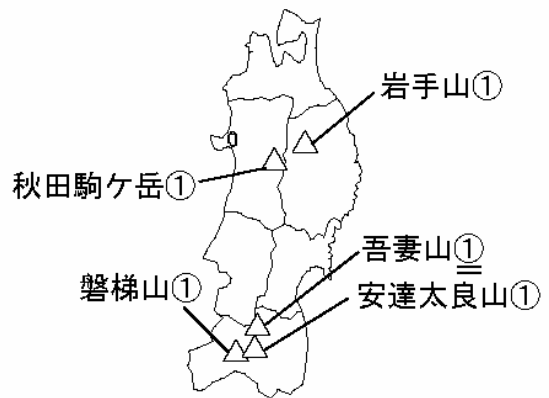
◇：静穏な状況であるが観測データ等に変化のあった火山

解説を掲載した火山とその活動状況

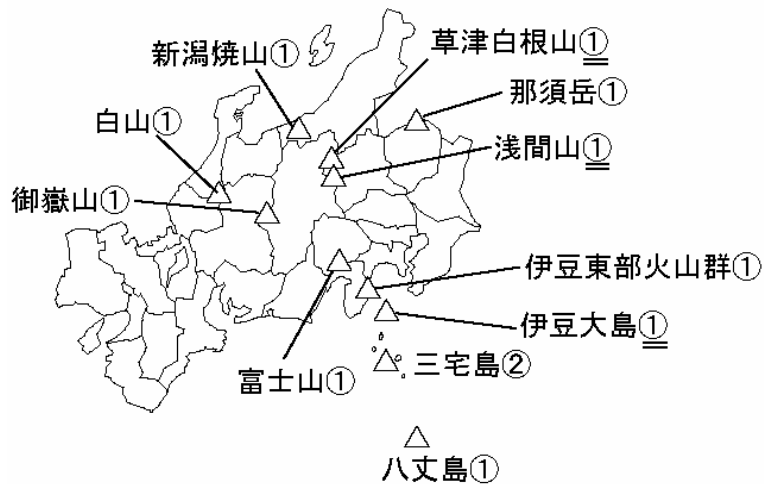
【北海道地方】



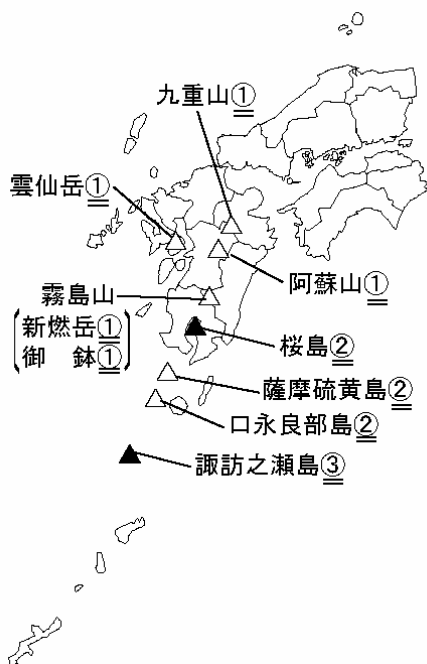
【東北地方】



【関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島】



【中国・九州地方、南西諸島】



凡例

①：火山活動が静穏な状況

②：火山活動がやや活発な状況

③：火山活動評価が活発な状況

注) 2重線を引いた数字はレベルを示す。

①：レベル1

②：レベル2

③：レベル3

△：解説を掲載した火山

▲：解説を掲載した火山のうち噴火した火山

※：海底火山

過去1年間の火山活動の状況（やや活発もしくは活発な状況であった火山）

火 山 名	※	平成18年						平成19年					
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
雌 阿 寒 岳	噴火活動	②	②→①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
十 勝 岳	噴火活動	②	②	②	②	②	②	②	②→①	①	①	①	①
樽 前 山	噴火活動	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
浅 間 山	噴火レベル	②	②	②→①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
御 嶽 山	噴火活動	①	①	①	①	①	①	①→②	②	▲	②	②→①	①
三 宅 島	噴火活動	②	▲	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
硫 黄 島	噴火活動	①	①	①	①	①	①	①→②	②	②	②	②	②
福 徳 岡 ノ 場	噴火活動	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
阿 蘇 山	噴火レベル	②	②→①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
霧 島 山（新燃岳）	噴火レベル	①	①	①	①	①	①→②	②→①	①	①	①	①	①
霧 島 山（御鉢）	噴火レベル	①	①	①	①	①	①	①	①→②	②→①	①	①	①
桜 島	噴火レベル	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
薩 摩 硫 黄 島	噴火レベル	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
口 永 良 部 島	噴火レベル	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
諏 訪 之 瀬 島	噴火レベル	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲

※噴火が発生した場合▲で示す。レベル及び活動は、火山活動度レベルが導入されている火山については火山活動度レベルを、それ以外の火山については活動評価をそれぞれ示す。

凡例

- ①：火山活動が静穏な状況もしくはレベル1
- ②：火山活動がやや活発な状況もしくはレベル2
- ③：火山活動が活発な状況もしくはレベル3

2007 年 6 月の火山情報発表状況

火 山 名	情報の種類及び号数	発表日時	火山活動評価	概 要
三 宅 島	火山観測情報 第 22～25 号 (週 1 回発表)	1 日、8 日 15 日、22 日 16:30	やや活発	最近の火山活動評価、火山活動の状況（噴煙・火山ガス・地震）。25 号をもって定期的な火山観測情報の発表を終了。

全国の火山活動評価結果（6 月 30 日現在）

（1）主な活火山（35 火山）

	火山名	火山活動評価（6 月 30 日現在）	最近の活動経過	
北海道地方	雌阿寒岳	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏 平成 18 年 2 月 18 日 やや活発 3 月 21 日 【噴火】活発 4 月 12 日 やや活発 5 月 25 日 静穏	☆
	十勝岳	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 やや活発 平成 19 年 2 月 16 日 静穏	☆
	樽前山	やや活発な状況	平成 17 年 6 月 21 日 やや活発	☆
	倶多楽	静穏な状況	平成 18 年 2 月 28 日 静穏	☆
	有珠山	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	☆
	北海道駒ヶ岳	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	☆
	恵山	静穏な状況	平成 17 年 11 月 2 日 静穏	☆
東北地方	岩手山	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	☆
	秋田駒ヶ岳	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	☆
	吾妻山	静穏な状況（レベル 1）	平成 17 年 2 月 1 日 静穏	※
	安達太良山	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	☆
	磐梯山	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	☆
関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島	那須岳	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	☆
	草津白根山	静穏な状況（レベル 1）	平成 17 年 6 月 1 日 静穏（レベル 1）	※
	浅間山	静穏な状況（レベル 1）	平成 15 年 11 月 4 日 やや活発（レベル 2） 平成 16 年 7 月 20 日 静穏（レベル 1） 7 月 31 日 やや活発（レベル 2） 9 月 1 日 【噴火】活発（レベル 3） 平成 17 年 6 月 21 日 やや活発（レベル 2） 平成 18 年 9 月 22 日 静穏（レベル 1）	※
	新潟焼山	静穏な状況	平成 18 年 2 月 28 日 静穏	☆
	御嶽山	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏 平成 19 年 1 月 19 日 やや活発 平成 19 年 5 月 25 日 静穏	☆
	白山	静穏な状況	平成 17 年 11 月 2 日 静穏	☆
	富士山	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	☆
	箱根山	静穏な状況	平成 18 年 11 月 14 日 静穏	☆
	伊豆東部火山群	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	☆
	伊豆大島	静穏な状況（レベル 1）	平成 15 年 11 月 4 日 静穏（レベル 1）	※
	三宅島	やや活発な状況	平成 17 年 6 月 21 日 やや活発	☆
	八丈島	静穏な状況	平成 18 年 2 月 28 日 静穏	☆
	硫黄島	やや活発な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏 平成 19 年 1 月 9 日 やや活発	☆
	福德岡ノ場	やや活発な状況	平成 17 年 11 月 2 日 やや活発	☆

	火山名	火山活動評価（6月30日現在）	最近の活動経過		
九州地方・南西諸島	九重山	静穏な状況（レベル1）	平成17年2月1日	静穏（レベル1）	※
	阿蘇山	静穏な状況（レベル1）	平成15年11月4日 平成16年1月14日 2月13日 平成17年4月14日 5月13日 平成18年1月20日 3月24日 8月4日	やや活発（レベル2） 【噴火（土砂噴出）】 活発（レベル3） やや活発（レベル2） 【噴火（土砂噴出）】 活発（レベル3） やや活発（レベル2） 静穏（レベル1） やや活発（レベル2） 静穏（レベル1）	※
	雲仙岳	静穏な状況（レベル1）	平成15年11月4日	静穏（レベル1）	※
	霧島山（新燃岳）	静穏な状況（レベル1）	平成17年2月1日 平成18年2月1日 5月22日 平成18年12月3日 平成19年1月9日	静穏（レベル1） やや活発（レベル2） 静穏（レベル1） やや活発（レベル2） 静穏（レベル1）	※
	霧島山（御鉢）	静穏な状況（レベル1）	平成17年2月1日 平成18年5月22日 平成19年2月5日 平成19年3月5日	やや活発（レベル2） 静穏（レベル1） やや活発（レベル2） 静穏（レベル1）	※
	桜島	比較的静穏な噴火活動（レベル2）	平成15年11月4日 平成18年6月12日 8月18日	比較的静穏な噴火活動（レベル2） 【昭和火口から噴火】 活発（レベル3） 比較的静穏な噴火活動（レベル2）	※
	薩摩硫黄島	やや活発な状況（レベル2）	平成17年2月1日	やや活発（レベル2）	※
	口永良部島	やや活発な状況（レベル2）	平成17年2月1日	やや活発（レベル2）	※
	諏訪之瀬島	活発な状況（レベル3）	平成17年2月1日	【噴火継続】 活発（レベル3）	※
	硫黄島	静穏な状況	平成19年2月16日	静穏	☆

注）最近の活動経過欄は、火山活動度レベル導入火山（※）にはレベル導入日からの、それ以外の火山（☆）には第101回火山噴火予知連絡会（平成17年6月21日開催）以降最初に評価を明記した火山噴火予知連絡会開催日からの活動経過を示している。

（2）その他の活火山（50火山）

以下の活火山では、いずれも火山活動は静穏な状況である。

	火 山 名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌブリ、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島
東北地方	恐山、岩木山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、鳥海山、栗駒山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方 及び伊豆・小笠原諸島	高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、焼岳、アカンダナ山、乗鞍岳、利島、新島、神津島、御蔵島、青ヶ島
中国・九州地方 及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島

（補足）評価対象外の活火山（23火山）

無人島：伊豆鳥島、西之島

岩礁あるいは岩：ベヨネース列岩、須美寿島、嬬婦岩

海底火山：海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山、西表島北北東海底火山

北方四島：茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

● 世界の主な火山活動

平成 19 年（2007 年）6 月に噴火したと報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。
このうち、顕著な活動が見られた主な火山は以下のとおりである。

クリュチェフスコイ（カムチャツカ、ロシア）（図中A）

活発な噴火活動が続いている。噴煙は最高で海拔 10,000m の高さまで達した。29 日には火山灰を含む噴煙は東へ 2,000km 以上も移動した。また、溶岩流が北西山麓をたびたび流下した。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の GVP（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）

